

加古川市文化財年報

第2号

平成28(2016)年度

平成31(2019)年3月

加古川市教育委員会

『加古川市文化財年報 第2号 平成28(2016)年度』 正誤表

以下の間違いがありましたので、お詫びして訂正いたします。

頁・行	誤	正
41 頁・写真 62	常楽寺石造十三塔現地調査	常楽寺石造十三重塔現地調査
56 頁・24 行	…『文化財ニュース』59号…	…『文化財ニュース』60号…

加古川市文化財年報

第2号

平成28(2016)年度

平成31(2019)年3月

加古川市教育委員会

目次

目次・例言・凡例

巻頭図版

第1章 調査研究	1
調査報告1 美乃利遺跡 工事立会報告	
調査報告2 溝之口遺跡 確認調査報告	
調査報告3 溝之口遺跡 確認調査報告	
調査報告4 加古川西市民病院跡地 試掘調査報告	
調査報告5 溝之口遺跡 工事立会報告	
調査報告6 正興寺 釈迦涅槃図 概要調査報告	
第2章 文化財の保護と活用	31
新市指定文化財 常楽寺の石造十三重塔	
第3章 西条古墳群史跡整備事業	39
第4章 文化財審議委員会	40
第5章 文化財関係の事務処理	42
第6章 組織、予算・決算、管理	54

抄録

例言・凡例

1. 本書は、平成28（2016）年度に加古川市教育委員会が実施した文化財保護のための調査及び活動を記録した報告書である。
2. 本書の作成は、加古川市教育委員会事務局教育指導部文化財調査研究センターが行った。執筆は宮本佳典、山中リュウ、平尾英希が行い、編集は平尾が行った。執筆の分担は文末に明記している。
3. 出土遺物の整理、実測、製図にあたっては、平尾のほか、加古川市臨時職員 林弘幸（大手前大学大学院生）、園原悠斗、吉村慎太郎（以上、立命館大学大学院生）が担当した。また、図表作成のデータ整理にあたっては、加古川市臨時職員 奥野明子の助力を得た。
4. 遺物実測図について、須恵器の断面は黒塗りで表現している。
5. 本書掲載の地図は、加古川市発行の都市計画図を一部改変し、使用した。縮尺などは各地図に示したとおりである。
6. 本書で報告した出土遺物、実測図、写真などは加古川市教育委員会が保管している。



写真1 石造十三重塔（常楽寺）



写真 2 釈迦涅槃図 (正興寺)

第1章 調査研究

1 埋蔵文化財調査

国及び県の文化財関係補助金事業として、各種開発事業に伴い、市内遺跡の発掘調査や出土品の整理などを行った。平成28(2016)年度の事業費は9,648千円(国費4,750千円、県費2,375千円)であった。

平成28年度は、①開発事業に伴い破壊される遺構・遺物を記録保存することを目的とした発掘調査3件、②周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)内での開発事業に伴い破壊される恐れのある遺構・遺物の状況を確認することを目的とした確認調査など32件、③周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)外での開発事業に伴い事前に埋蔵文化財の有無を把握することを目的とした試掘調査及び分布調査など9件を実施した(表1)。

発掘調査は、中道子山城跡、上村池遺跡、古堂廃寺の3遺跡について調査を実施した。中道子山城跡の発掘調査は民間開発の放送設備設置工事に伴い実施したもので、上村池遺跡と古堂廃寺の発掘調査は兵庫県と加古川市が事業実施主体となって行っている農業基盤整備事業の雁戸井土地改良区ほ場整備に伴い実施したものである。

中道子山城跡の発掘調査では、「米倉」と伝承されている場所の北西裏手側に設定した調査区において、曲輪縁辺部をめぐる土塁の基底部と考えられる礫敷遺構が検出された。また、曲輪を形成する際の造成盛土の過程が詳細に観察され、大きく3段階の盛土によって平坦面を造り出していることが明らかとなった。土師質土器や陶磁器、鉄釘など、おおよそ15世紀後半から16世紀前半にかけての遺物が出土した。なお、発掘調査の成果は、『中道子山城跡発掘調査報告書Ⅱ』(加古川市文化財調査報告28)として、平成29(2017)年12月に刊行した。

上村池遺跡と古堂廃寺では、隣接する2つの遺跡内において、ほ場整備事業によって遺跡が破壊される範囲に3箇所調査区を設定し発掘調査を実施した。調査区1・2は上村池遺跡に、調査区3は上村池遺跡と古堂廃寺の範囲に含まれる。調査区1では、おもに奈良時代を中心とする掘立柱建物数棟のほか、竪穴建物1棟などが検出され、掘立柱建物のなかには一辺1.0m前後の柱掘方をもつ大型の建物跡も認められた。奈良時代の土師器や須恵器が出土したほか、イイダコ壺などが出土した。調査区2では、粘土採掘坑の可能性が考えられる遺構が検出されたが、遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であった。調査区3では、調査区1と同様に奈良時代の掘立柱建物が多く検出されたほか、平安時代の溝などが検出され、土師器や須恵器、瓦などが出土した。なお、古堂廃寺については、平成29年度に調査区3の延長部分を追加調査している。

試掘調査や確認調査では、上村池遺跡と古堂廃寺の発掘調査と併行して雁戸井土地改良区ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査を行ったほか、中学校給食センター建設事業や加古川西市民病院跡地活用事業、中津水足線外1線道路改良事業に伴って試掘調査を実施した。また、下水道などの公共工事、個人住宅や宅地造成などの民間開発に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地内外で調査を実施した。

ほ場整備事業に伴う調査では、事業対象地の八幡町上西条・下村地内に設定した160箇所の調査区のうち19箇所溝や土坑、ピットなどの遺構が検出されたが、遺物がほとんど出土しなかったため、大半のものが時期不詳であった。今回の調査で得られた成果と前年度に実施した試掘・確認調査の成果から、必要な範囲を新規の遺跡として登録し、ほ場整備の工事によって破壊される範囲について平成29年度以降も継続して発掘調査を実施している。

中学校給食センター建設事業に伴う試掘調査では、事業計画地の敷地内に17箇所の調査区を設定し

て調査を行ったが、いずれの調査区からも遺構は検出されず、また遺物も出土しなかった。

加古川西市民病院跡地活用事業に伴う試掘調査では、事業計画地である病院敷地内に11箇所の調査区を設定し調査を行った。調査の結果、2箇所の調査区から溝や土坑が検出され、溝から弥生土器が出土したほか、計8箇所の調査区から弥生土器や土師器、須恵器などの遺物が出土した。

中津水足線外1線道路改良事業に伴う試掘調査では、道路敷設計画部分に9箇所の調査区を設定し調査を行ったが、各調査区から遺構は検出されず、また遺物も須恵器片などが少量出土したのみであった。

本年報では、これらの試掘・確認調査や工事立会において遺構・遺物が確認されたものを中心として、以下5件の調査成果について報告する（図1）。

- 調査報告1 美乃利遺跡 工事立会報告
- 調査報告2 溝之口遺跡 確認調査報告
- 調査報告3 溝之口遺跡 確認調査報告
- 調査報告4 加古川西市民病院跡地 試掘調査報告
- 調査報告5 溝之口遺跡 工事立会報告

2 その他の文化財調査

埋蔵文化財を除くその他の文化財調査については、市指定文化財の指定に係る石造品の事前調査1件、所有者などからの照会及び情報提供に伴い保護の必要性を判断するための現状把握調査1件を実施した。このほか、指定文化財を含む市内文化財の現状確認のための巡視12件を行った。

市指定文化財の指定に係る事前調査は、平成29年3月2日に市指定文化財となった常楽寺の石造十三重塔に関係した事前調査である。その要点については、「第2章文化財の保護と活用／1指定・登録文化財」に記している。

その他の現状把握確認調査では、正興寺の釈迦涅槃図について概要調査を行った。今後の文化財保護活動のため、本年報において以下のとおり報告を行う。

- 調査報告6 正興寺 釈迦涅槃図 概要調査報告

(平尾)

表1 発掘調査及び確認調査、試掘調査一覧

発掘調査

番号	遺跡	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
1	中道子山城跡 城館跡 中世	志方町広尾1939番62の一部	11月25日～ 12月9日	87.85㎡	礫敷遺構・ピット、土師質土器・ 陶磁器・鉄製品	
2	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 弥生・奈良～平安	八幡町中西条・上西条地内	11月17日～ 3月10日	910㎡	竪穴建物・掘立柱建物・溝・土坑・ ピット、土師器・須恵器・イイ ダコ壺	雁戸井土地改良区 ほ場整備事業
3	古堂廃寺 社寺跡 奈良	八幡町中西条・上西条地内	11月17日～ 3月10日	368㎡	掘立柱建物・溝・土坑・ピット、 弥生土器・須恵器・瓦	雁戸井土地改良区 ほ場整備事業

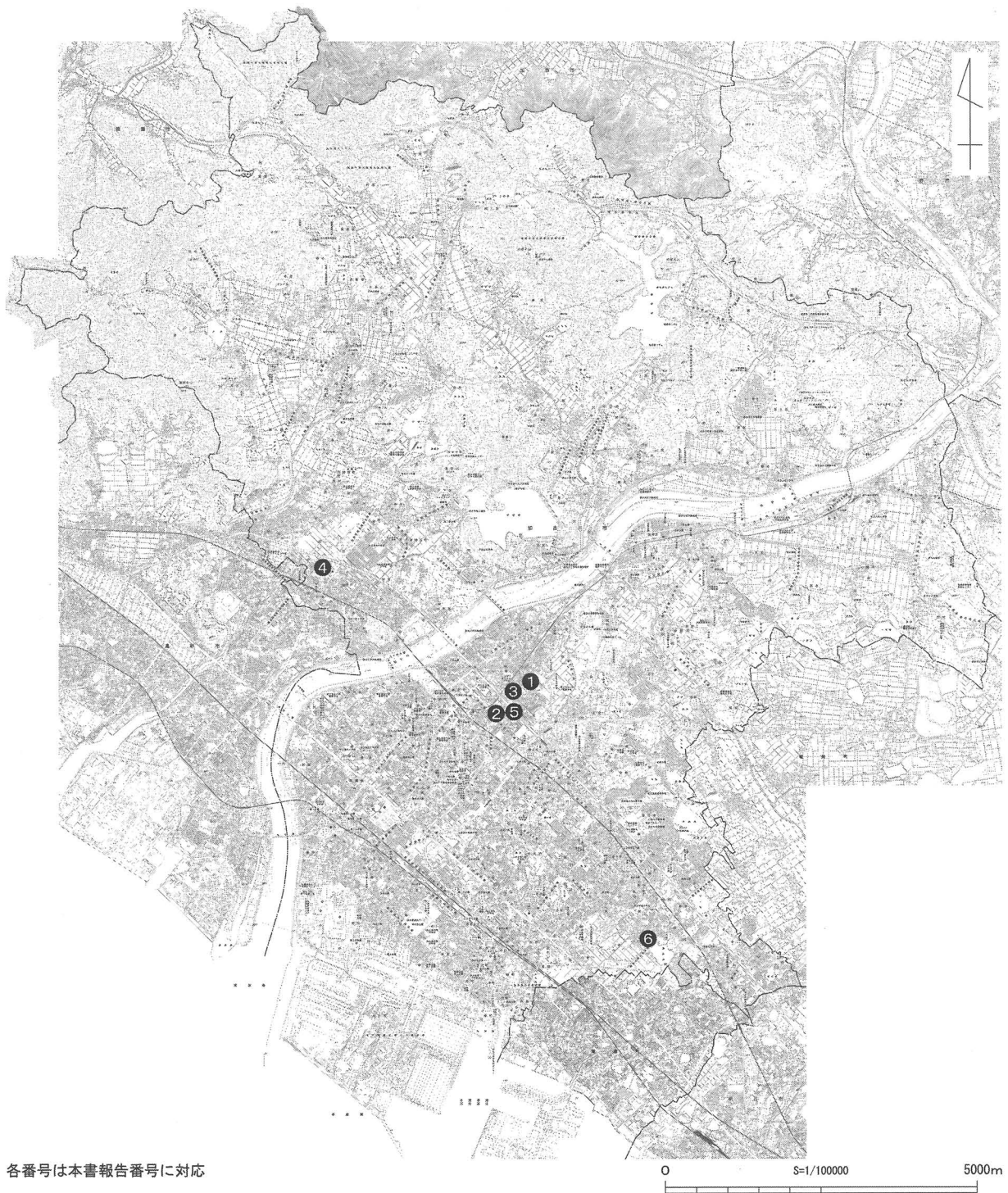
試掘・確認調査

番号	遺跡 ^{註1}	所在地	調査期間 ^{註2}	調査面積	調査概要	備考
1	具平塚遺跡 散布地 弥生	野口町良野522番27	4月6日	4㎡	遺構・遺物なし	
2	加古川城跡 城館跡 中世	加古川町本町108番1・4	4月14日	20㎡	溝・ピット、土師器・須恵器	
3	西条4号墳 古墳 古墳	西条山手二丁目3番29	4月19日	4㎡	遺構・遺物なし	
4	長砂遺跡 集落跡 弥生	野口町長砂1053番13・16	4月20日	2.25㎡	遺構なし、弥生土器	
5	加古川町稲屋 地区	加古川町稲屋542番1の一部	4月25日、5 月23・24日	75㎡	畦畔状遺構・ピット、土師器	試掘調査
6	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口69番1の一部	5月9日	3.75㎡	遺構なし、土師器・須恵器	
7	粟津大年遺跡 集落跡 中世	加古川町木村21番16	5月13日	4㎡	遺構なし、土師器	
8	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	平岡町新在家57番1	5月20日	5㎡	遺構・遺物なし	
9	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口140番1～5・ 8	6月1・2日	8.7㎡	溝・土坑・ピット、弥生土器・ 土師器・須恵器・石器剥片	
10	神吉城跡 城館跡 中世	東神吉町神吉1337番	6月8・10日	11.2㎡	遺構・遺物なし	
11	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口52番5、55番1 の各一部	6月20日	2.4㎡	遺構なし、土師器・須恵器	
12	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町美乃利381番1、381番 2の一部、水路、市道	6月30日	8㎡	溝・性格不明遺構、弥生土器・ 土師器・須恵器	
13	平山遺跡 集落跡 弥生	平荘町池尻616番1	7月1日	3㎡	遺構・遺物なし	
14	加古川町大野、 神野町西之山 地区	加古川町大野、神野町西之山地 内	7月1・2・ 15・19～22日	68㎡	遺構・遺物なし	中学校給食セン ター建設に伴う試 掘調査
15	米田町平津地 区	米田町平津384番1ほか	7月4～7・ 11・12日	48㎡	溝・土坑、弥生土器・土師器・ 須恵器	西市民病院跡地活 用事業に伴う試掘 調査
16	平岡町一色地 区	平岡町一色622番、623番1の一 部、625番1、626番1、627番1、 628番1、629番1の一部ほか	7月6日	20㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
17	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	野口町良野990番1・2	7月6・7日	12㎡	遺構・遺物なし	
18	一色構居跡 城館跡 中世	平岡町一色530番2	7月14日	2㎡	遺構・遺物なし	
19	野口町長砂地 区	野口町長砂374番2・4の各一 部、375番1、375番2の一部、 375番4、377番3・4、378番 2の一部ほか	7月28日	16㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
20	神吉南遺跡 集落跡 弥生～奈良	東神吉町神吉169番3、169番10 の一部	8月1日	1.3㎡	遺構・遺物なし	

番号	遺跡 ^{註1}	所在地	調査期間 ^{註2}	調査面積	調査概要	備考
21	上富木遺跡 集落跡 縄文～平安	志方町上富木392番	8月2日	4㎡	遺構・遺物なし	
22	加古川町稲屋 地区	加古川町稲屋796番、797番5	8月6日	8㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
23	加古川町大野・ 中津地区	加古川町大野553番5～中津637 番2地先	8月17～19・ 22～24日	42.75㎡	遺構なし、須恵器	中津水足線外1線 道路改良事業に伴 う試掘調査
24	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	神野町西条1069番8	8月25日	2㎡	遺構・遺物なし	
25	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	尾上町口里554番2	9月1日	8㎡	遺構なし、土器片	
26	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	尾上町口里473番14、474番の各 一部	9月9日	5.6㎡	遺構なし、土器片	
27	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	東神吉町砂部393番	9月15日	4㎡	遺構・遺物なし	
28	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	東神吉町神吉608番201	10月8日	3.75㎡	遺構なし、土器片	
29	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	尾上町口里560番	10月17日	8㎡	遺構なし・土器片	
30	中道子山城跡 城館跡 中世	志方町広尾1939番62の一部	10月31日～11 月24日	87.85㎡	礫敷遺構・ピット、土師質土器・ 陶磁器・鉄製品	確認調査後、発掘 調査
31	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	尾上町長田249番20	11月8日	4㎡	遺構なし、土師器片・須恵器片	
32	山手二丁目地 区	山手二丁目1542番1	11月10日	24㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
33	一色構居跡 城館跡 中世	平岡町一色61番7	12月1日	4㎡	ピット・性格不明遺構、遺物な し	
34	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	東神吉町砂部440番1	12月7日	4㎡	性格不明遺構、土師器・須恵器	
35	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	神野町西条1056番4、1059番 1、1062番、1063番の一部	12月21日	4㎡	性格不明遺構、土師器・須恵器	
36	猫池遺跡 散布地 弥生 八幡町上西条・ 下村地区	八幡町上西条・下村地内	1月6日～2 月28日	640㎡	溝・土坑・ピット、土師器・須 恵器	雁戸井土地改良区 は場整備事業に伴 う試掘・確認調査
37	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口76番1の一部	1月19日	3㎡	遺構・遺物なし	
38	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町1061番1・5、 1067番3	1月27日	4㎡	遺構・遺物なし	
39	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	野口町古大内349番23	1月30日	3㎡	遺構・遺物なし	
40	山角廃寺 社寺跡 奈良	平荘町山角410番	2月7日	1.82㎡	遺構・遺物なし	

註1：試掘調査については、遺跡の名称及び種類、時代ではなく地区名を記している。

註2：試掘・確認調査における調査期間には確認調査の期間のほか、その後に実施した工事立会の期間も含む。



各番号は本書報告番号に対応

図1 確認調査等及びその他の調査（本書報告分）位置図

調査報告 1 美乃利遺跡 工事立会報告

調査場所 加古川市加古川町美乃利地内
調査期間 平成28(2016)年4月19・20・22・25・
26・29日、5月23・24・31日
調査面積 約26㎡
担当者 山中リュウ、平尾英希

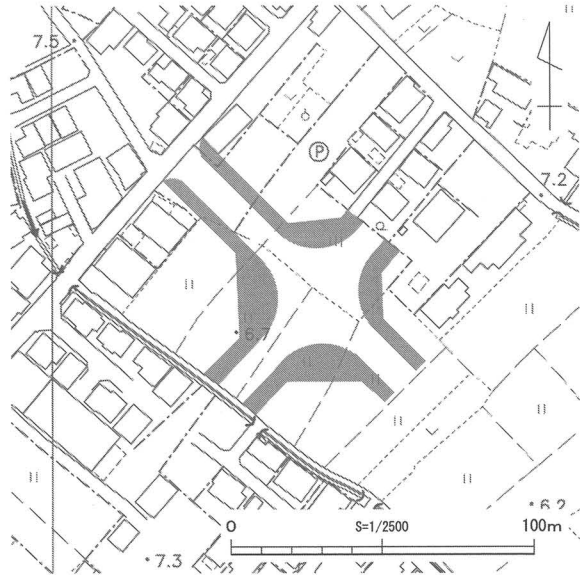


図2 調査位置図

1 調査に至る経緯

平成26・27(2014・2015)年度にかけて加古川市教育委員会が実施した中津水足線外道路改良事業に伴う溝之口遺跡、美乃利遺跡の本発掘調査範囲の隣接部に当たる歩道部分において下水道工事が予定された(図2)。当該地は美乃利遺跡の南西部に位置しており、発掘調査で弥生時代から鎌倉時代にかけての遺構が多数検出されていた(山中編2018)。発掘調査範囲から続く遺構が工事によって破壊されることが予想されたため、開発事業者と協議を行い工事立会を実施することとした。

2 調査の結果

マンホールを設置するために深く掘削するところを中心に、7箇所の工事場所(以下、便宜的に調査区と呼称する)において立会を行った(図3)。今回の報告では、遺構が検出された調査区2・5・6について述べる(図4)。なお、調査区の位置については、周辺からの測り込みによって記録したため、精度を著しく欠いているものとなっている。

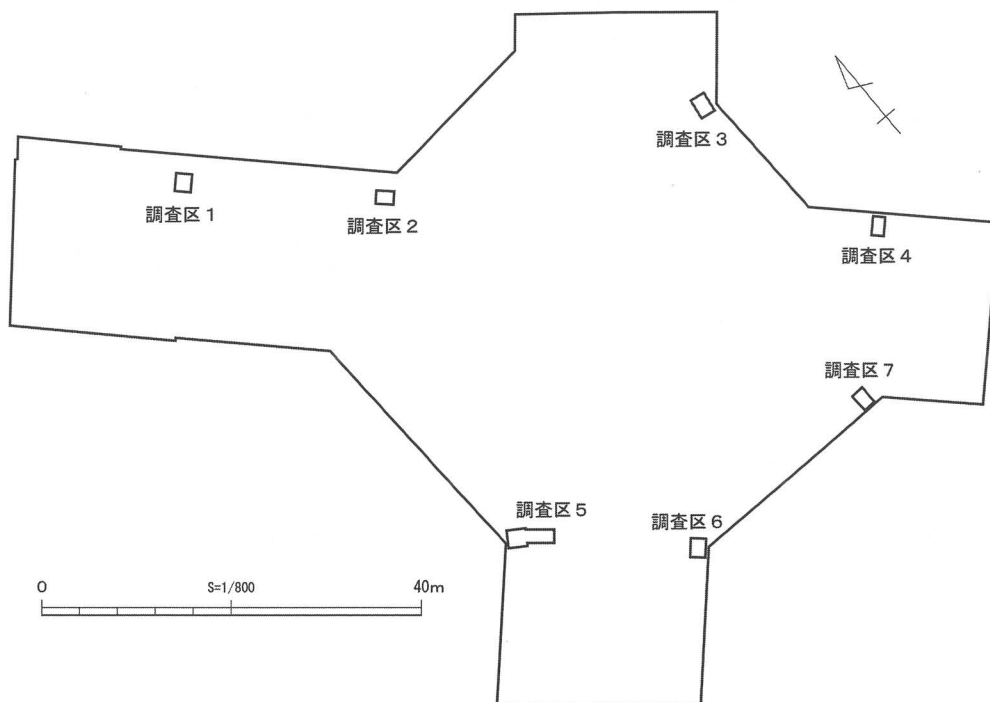
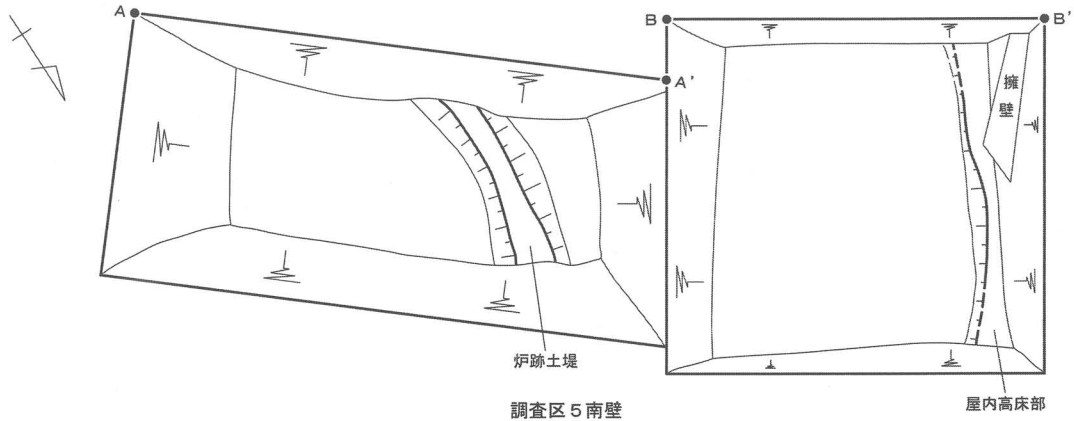
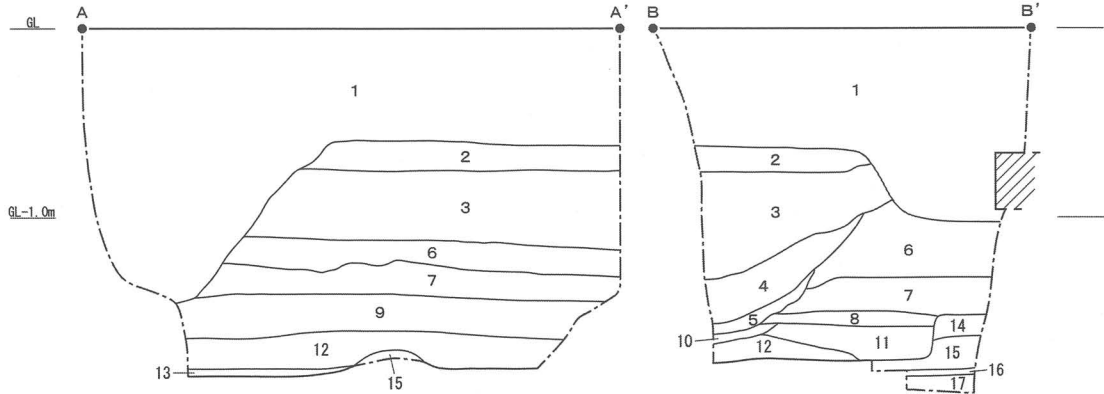


図3 調査区配置図

調査区5 S I 1平面図



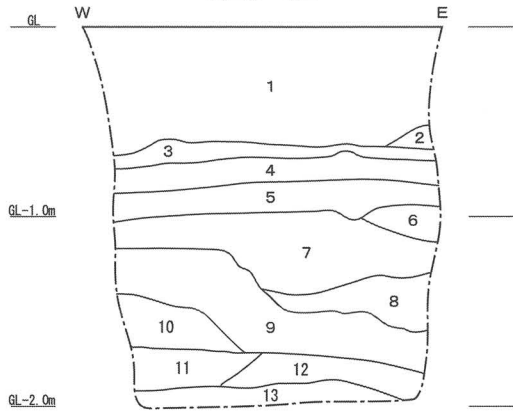
調査区5南壁



調査区5

- | | | |
|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 1. 造成土 | 7. 7.5YR5/4 にぶい褐色 シルト | 13. 7.5YR2/1 黒色 シルト (S11埋土) |
| 2. 床土 | 8. 7.5YR4/2 灰褐色 シルト (S11埋土) | 14. 10YR6/6 明黄褐色 シルト |
| 3. 7.5YR5/3 にぶい褐色 シルト (SD2埋土) | 9. 10YR6/8 明黄褐色 シルト (S11埋土) | 15. 7.5YR5/8 明褐色 粘質土 |
| 4. 7.5YR5/2 灰褐色 シルト (SD2埋土) | 10. 7.5YR4/1 褐灰色 シルト (S11埋土) | 16. 7.5YR5/1 褐灰色 極細砂 |
| 5. 5YR5/6 明赤褐色 シルト (SD2埋土) | 11. 7.5YR4/3 褐色 シルト (S11埋土) | 17. 10YR5/4 にぶい黄褐色 中砂 |
| 6. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト | 12. 7.5YR5/1 褐灰色 シルト (S11埋土) | |

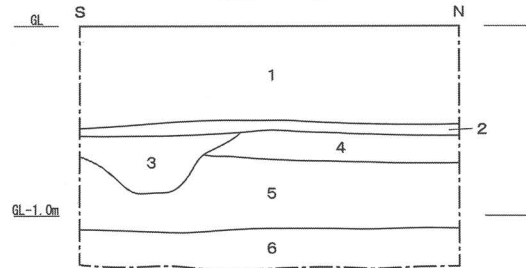
調査区2北壁



調査区2

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 造成土 | 8. 7.5YR3/3 暗褐色 シルト (SD1埋土) |
| 2. 旧耕作土 | 9. 10YR3/4 暗褐色 シルト (SD1埋土) |
| 3. 床土 | 10. 7.5YR3/3 暗褐色 シルト (SD1埋土) |
| 4. 7.5YR3/2 黒褐色 シルト (遺物包含層) | 11. 7.5YR3/4 暗褐色 シルト (SD1埋土) |
| 5. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト (遺物包含層) | 12. 7.5YR4/6 褐色 粘質土 (SD1埋土) |
| 6. 7.5YR3/4 暗褐色 極細砂 (SD1埋土) | 13. 7.5YR4/2 灰褐色 粘質土 |
| 7. 7.5YR3/2 黒褐色 シルト (SD1埋土) | |

調査区6西壁



調査区6

- | |
|----------------------------|
| 1. 造成土 |
| 2. 床土 |
| 3. 7.5YR4/1 褐灰色 シルト (遺構埋土) |
| 4. 7.5YR4/3 褐色 シルト |
| 5. 7.5YR5/6 明褐色 シルト |
| 6. 7.5YR3/3 暗褐色 砂礫 |

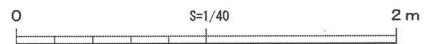


図4 調査区2・5・6平面図、土層断面図

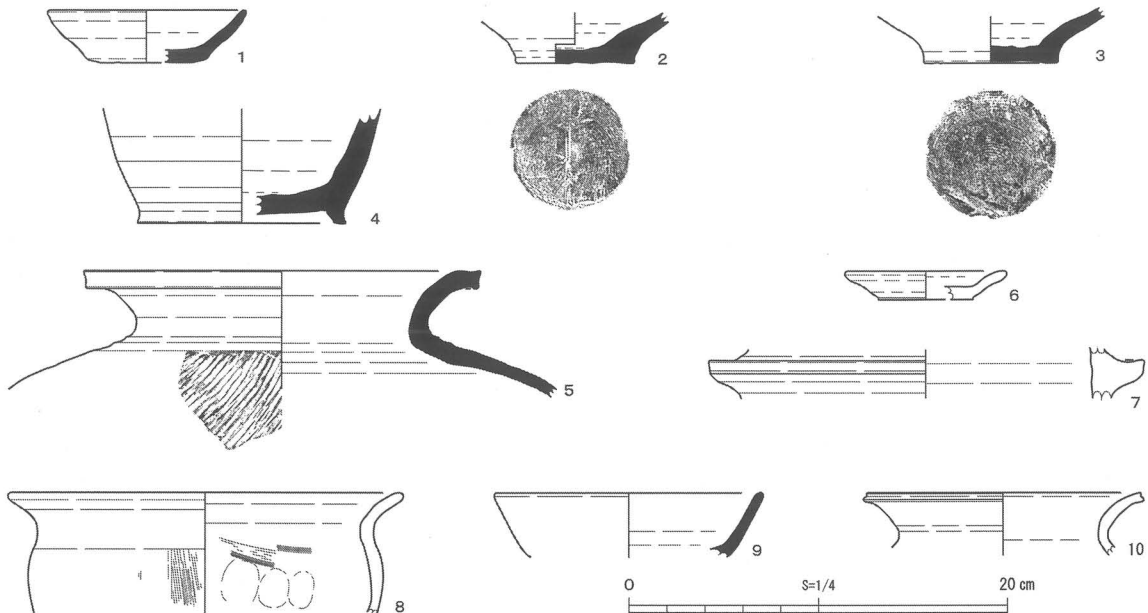


図5 調査区2・5出土遺物

調査区2 地表下0.64mまで造成土、旧耕作土、床土が堆積し、その下位には遺物包含層である黒褐色シルト層が堆積していた。平面的に遺構を検出することはできなかったが、調査区北壁の土層堆積状況から、包含層直下に堆積する暗褐色極細砂、黒褐色シルト、暗褐色シルト、褐色粘質土（第6～12層）は遺構（SD1）埋土と考えられ、本調査における「溝4」に対応するものとみられる。包含層から土師器や須恵器が出土したほか（図5-1～7）、遺構埋土から弥生土器や土師器、須恵器が出土した（図5-8）。調査区5 東側は本調査によって、西側は擁壁工事によって削平されているものの、その影響を受けていないところでは地表下0.76mまで床土が堆積し、その下位において溝（SD2）が検出され、須恵器などが出土した（図5-9）。SD2は、本調査における「溝2」に対応するものとみられる。

さらにSD2の下位では、黒褐色シルト層とにぶい褐色シルト層を挟んで本調査の「竪穴建物3」に対応する竪穴建物（SI1）の床面、屋内高床部、炉跡の土堤の一部が検出された。本調査で確認されていた状況と同じように、炉跡の土堤より内側には炭を多く含む黒色シルト層（第13層）が堆積していた。遺構埋土から弥生土器が出土した（図5-10）。

調査区6 地表下0.58mまで造成土、床土が堆積し、これより下位には褐色または明褐色シルト層がみられ、地表下1.08mで暗褐色砂礫層となっていた。平面的に遺構を検出することはできなかったものの、調査区西壁断面で地表下0.58mの褐色シルト層上面から掘り込まれている溝状遺構あるいは土坑の可能性のある遺構の断面が確認された。ただし、埋土から遺物が出土していないため時期は不明である。

3 まとめ

工事立会の結果、本発掘調査で検出されていた竪穴建物や溝の一部を確認することができた。本発掘調査の成果と併せて考えると周辺にも遺構が密に分布することが想定されるため、今後、周辺で開発行為がある時には注意していく必要がある。（平尾）

参考文献

山中リュウ編 2018『溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅳ・美乃利遺跡発掘調査報告書Ⅰ』加古川市文化財調査報告29 加古川市教育委員会

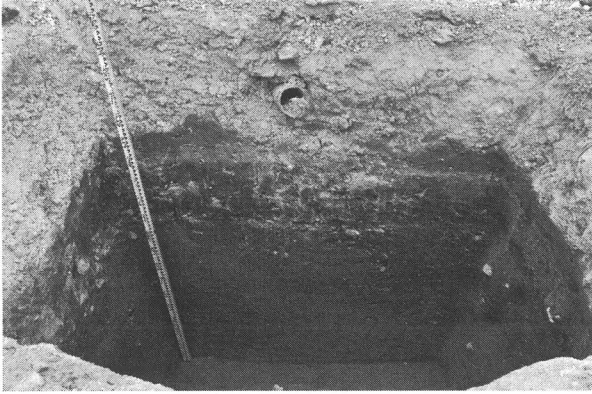


写真3 調査区2土層堆積状況(南西から)

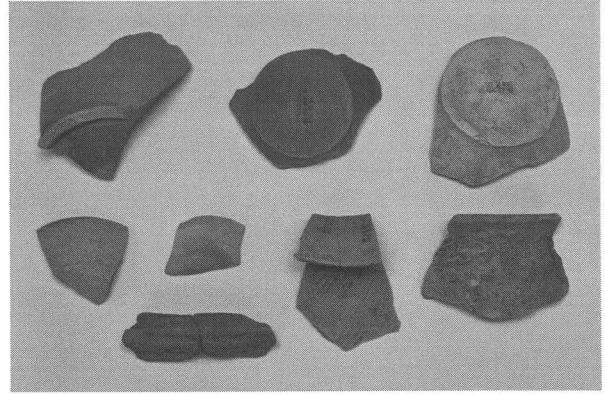


写真4 調査区2出土遺物



写真5 調査区5SD2完掘状況(北東から)

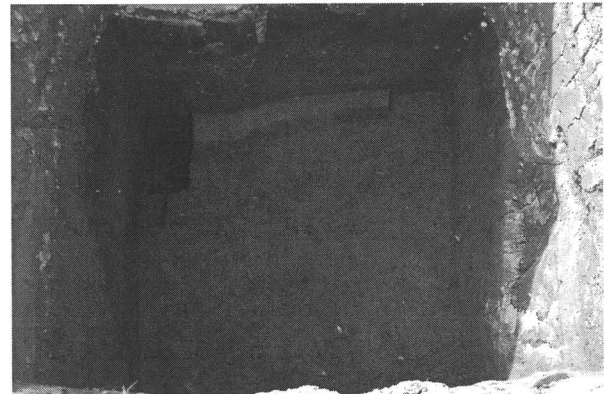


写真6 調査区5S I 1完掘状況(南東から)

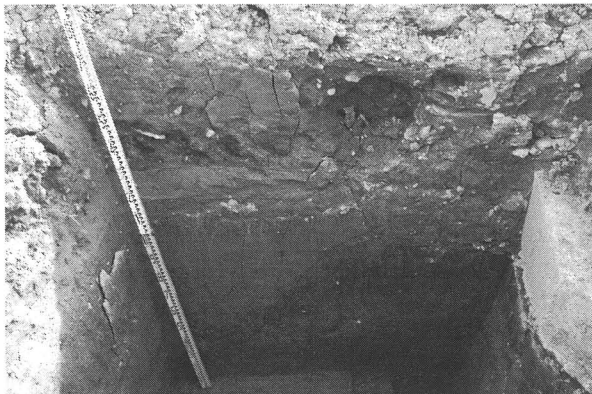


写真7 調査区5土層堆積状況(北東から)



写真8 調査区5S I 1土堤検出状況(北から)

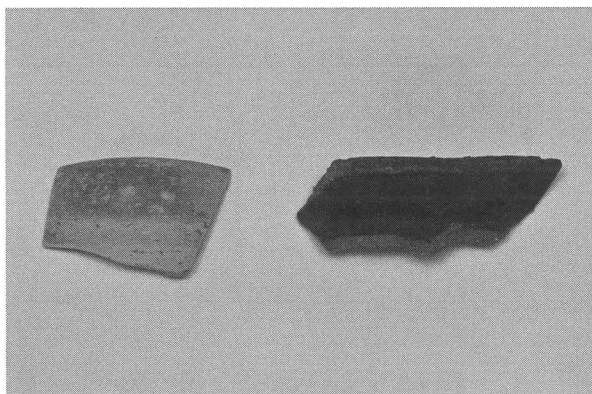


写真9 調査区5出土遺物



写真10 調査区6土層堆積状況(南東から)

調査報告 2 溝之口遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市加古川町溝之口140番1～5・8
調査期間 平成28(2016)年6月1・2日
調査面積 8.7㎡
担当者 李 聖子、平尾英希

1 調査に至る経緯

加古川町溝之口140番1～5・8において個人住宅建設工事が予定された(図6)。当該地は溝之口遺跡のほぼ中央に位置しており、すぐ西側の土地では平成20年度の確認調査(平成20年度加教文第344号)で奈良時代から平安時代頃の溝1条と土師器、須恵器が確認されていた。そのため、今回工事予定地でも遺構・遺物が確認されることが予想されたため、開発事業者と協議を行い確認調査を実施することとした。



図6 調査位置図

2 調査の結果

工事予定地に計4箇所の調査区を設定し確認調査を実施した(図7)。調査区の規模は、長さ2m、幅1mを基本としたが、調査区2については掘削途中に既存の建物基礎があり、調査区を北西側に拡張したため、最終的に長さ2.7m、幅1mとなった。以下、各調査区の内容について述べる(図8)。

調査区1 地表下0.73mまで現代造成土が堆積し、これより下位は褐灰色シルト及び褐色シルトの遺物包含層(第2・3層)となっていた。第3層の掘削途中に湧水があったため、最終的に地表下1.50mまで掘削したところで調査を中止した。包含層からは弥生土器、土師器、須恵器、サヌカイト製の石器剥片が出土した。

調査区2 地表下0.68mまで現代造成土と旧耕作土が堆積し、この下位は薄く堆積する褐色シルト層と黒褐色シルト層を挟んで黒褐色シルトの遺物包含層(第5層)となっていた。地表下1.40mの包含層直下では自然堆積層(地山)と考えられる黄褐色シルト層が確認され、この上面において溝状遺構1条(SD1)、土坑1基(SK1)、ピット1基(SP1)が検出された。遺物は包含層から弥生土器、土師器、須恵器が出土した(図9)。

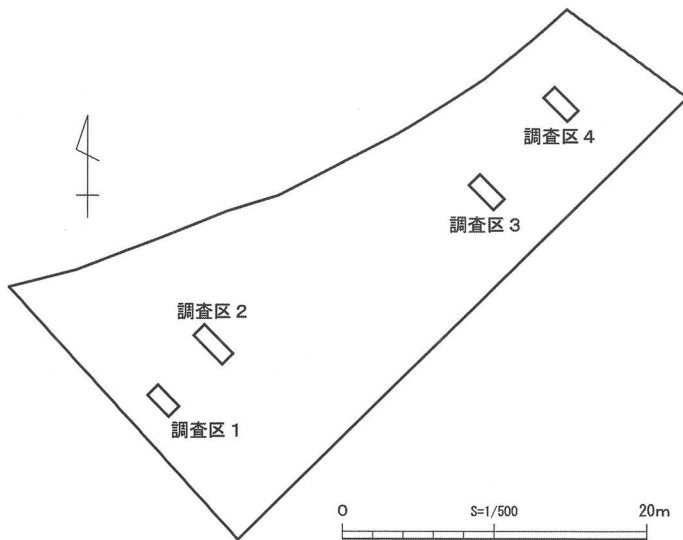
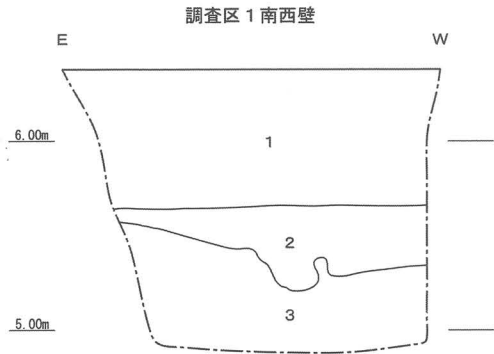


図7 調査区配置図

調査区3 地表下0.60mの旧耕作土直下の褐色シルト層(第3層)上面において溝状遺構1条(SD2)が検出され、遺構埋土から土師器、須恵器の細片が出土した。

SD2を記録した後、さらに下位の状況を確認するため第3層以下の掘り下げ

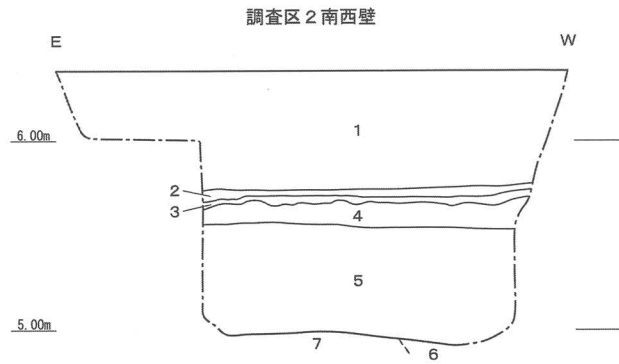
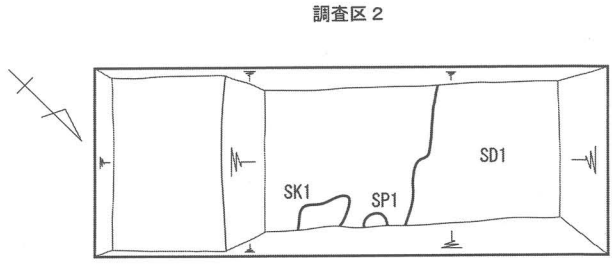


調査区 1

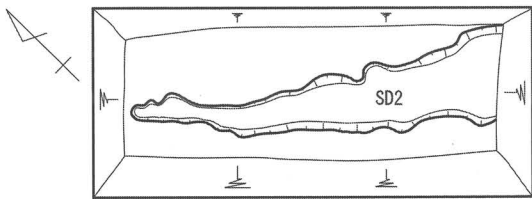
1. 現代造成土
2. 7.5YR4/1 褐灰色 シルト (遺物包含層)
3. 10YR4/6 褐色 シルト と 7.5YR4/2 灰褐色 シルト が混じる (遺物包含層)

調査区 2

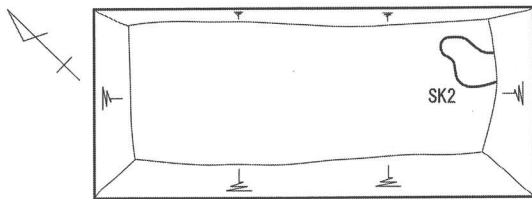
1. 現代造成土
2. 旧耕作土
3. 7.5YR4/3 褐色 シルト と 7.5YR5/1 褐灰色 シルト が混じる
4. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト
5. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト (遺物包含層)
6. 7.5YR2/1 黒色 シルト (SD1埋土)
7. 10YR5/8 黄褐色 シルト (地山)



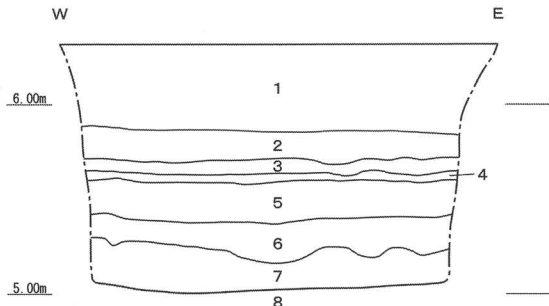
調査区 3 第 1 遺構面



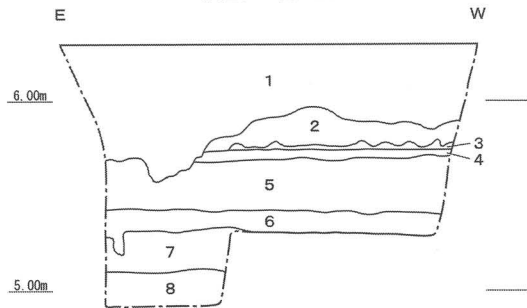
調査区 3 第 2 遺構面



調査区 3 北東壁



調査区 4 南西壁



調査区 3

1. 現代造成土
2. 旧耕作土
3. 7.5YR4/6 褐色 シルト
4. 7.5YR3/4 暗褐色 シルト
5. 7.5YR4/3 褐色 シルト と 7.5YR4/1 褐灰色 シルト が混じる
6. 10YR4/6 褐色 シルト と 7.5YR4/1 褐灰色 シルト が混じる
7. 7.5YR4/2 灰褐色 粘質土 (遺物包含層)
8. 10YR5/8 黄褐色 シルト (地山)

調査区 4

1. 現代造成土
2. 造成土
3. 旧耕作土
4. 7.5YR4/6 褐色 シルト と 7.5YR4/2 灰褐色 シルト が混じる
5. 7.5YR4/3 褐色 シルト と 7.5YR4/1 褐灰色 シルト が混じる
6. 10YR4/6 褐色 シルト と 7.5YR4/1 褐灰色 シルト が混じる
7. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト (遺物包含層)
8. 7.5YR3/1 黒褐色 中粒砂

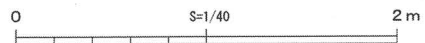


図 8 調査区 1 ~ 4 平面図、土層断面図

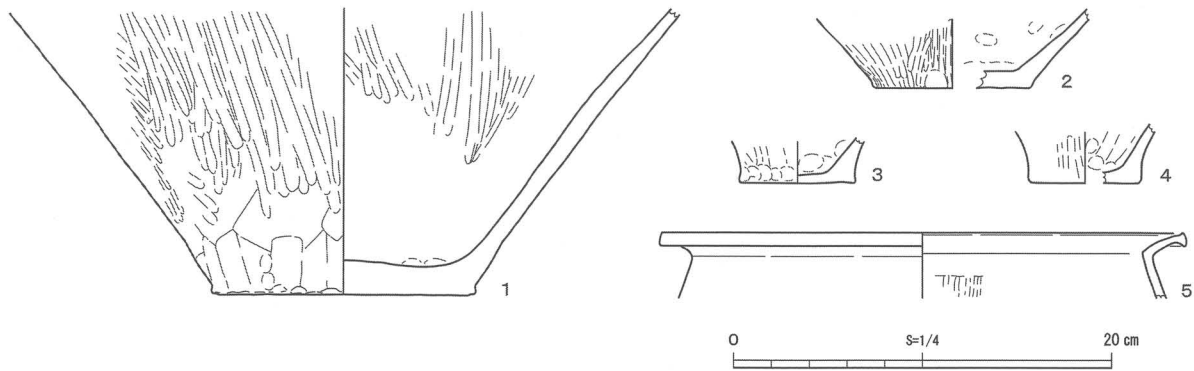


図9 調査区2 包含層出土遺物

を行った。地表下1.08mまで暗褐色または褐色シルト層が堆積し、その下位には弥生土器片を含む灰褐色粘質土の遺物包含層（第7層）が堆積していた。包含層直下の地表下1.30mでは自然堆積層（地山）とみられる黄褐色シルト層が確認され、上面から土坑1基（SK2）が検出された。

調査区4 地表下0.56mまで造成土、旧耕作土が堆積し、その下位には褐色シルト層が地表下1.00mまで堆積していた。褐色シルト層の下位には弥生土器、土師器、須恵器を含む黒褐色シルトの遺物包含層（第7層）が地表下1.20mまで堆積し、調査区の一部においてその直下に黒褐色中粒砂層が堆積している状況を確認したが、遺構は検出されなかった。

3 まとめ

調査の結果、今回工事予定地内では2面の遺構面が確認され、第1面から溝状遺構1条（SD2）が、第2面から溝状遺構1条（SD1）、土坑2基（SK1・2）、ピット1基（SP1）が検出された。第2面の遺構については掘削を行っておらず遺物が確認されていないため詳細な時期は不明であるが、周辺における過去の調査結果から弥生時代の遺構である可能性が高いと推測される。一方、SD2については遺構埋土から出土した土師器、須恵器の細片から奈良時代以降と考えられる。溝之口遺跡における集落様相を考えるうえで貴重な情報を得ることができた。（平尾）



写真11 調査区1 土層堆積状況（北東から）

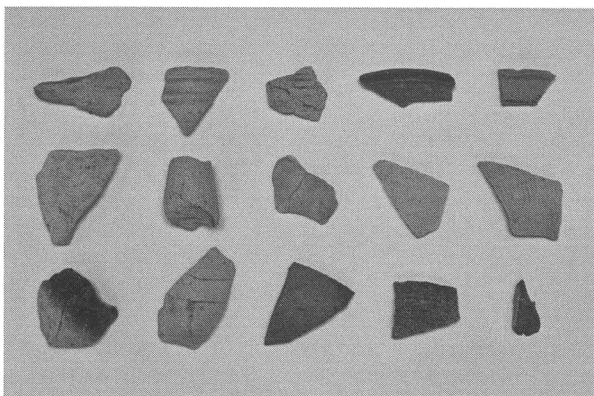


写真12 調査区1 包含層出土遺物

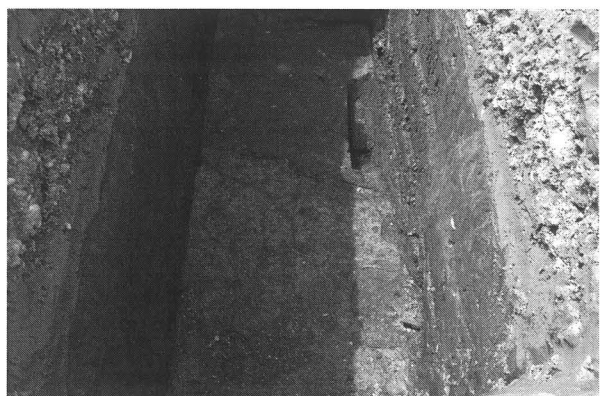


写真13 調査区2 遺構検出状況（南東から）



写真14 調査区2土層堆積状況（北東から）

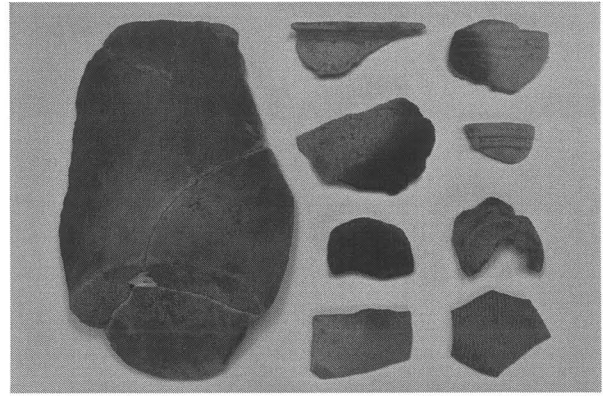


写真15 調査区2包含層出土遺物



写真16 調査区3SD2検出状況（南西から）



写真17 調査区3SK2検出状況（北西から）

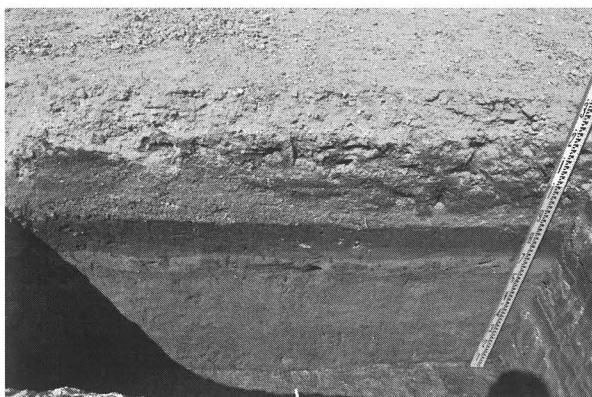


写真18 調査区3土層堆積状況（南西から）

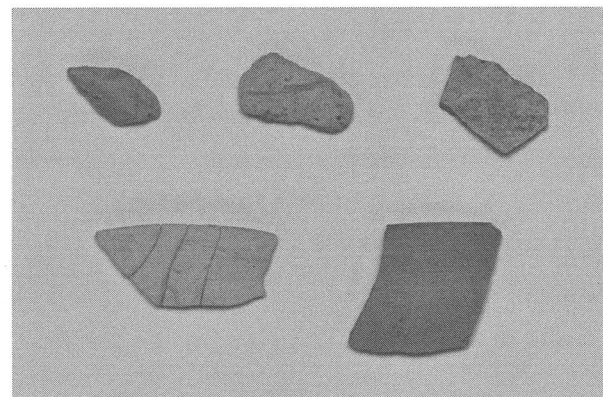


写真19 調査区3SD2出土遺物

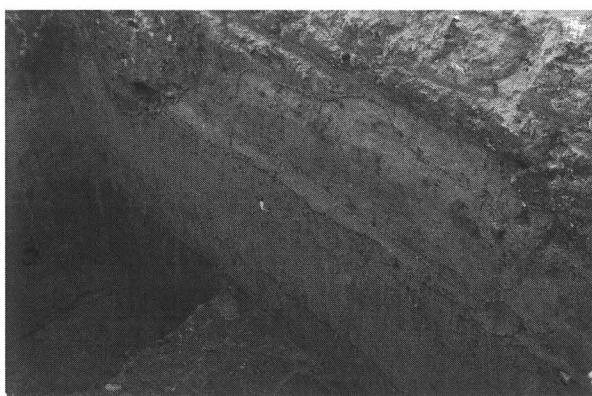


写真20 調査区4土層堆積状況（北から）

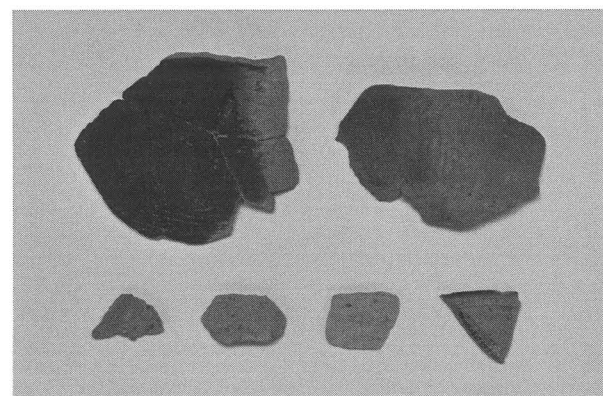


写真21 調査区4包含層出土遺物

調査報告 3 溝之口遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市加古川町美乃利381番1、381番2の一部、水路、市道
調査期間 平成28(2016)年6月30日
調査面積 8㎡
担当者 山中リュウ

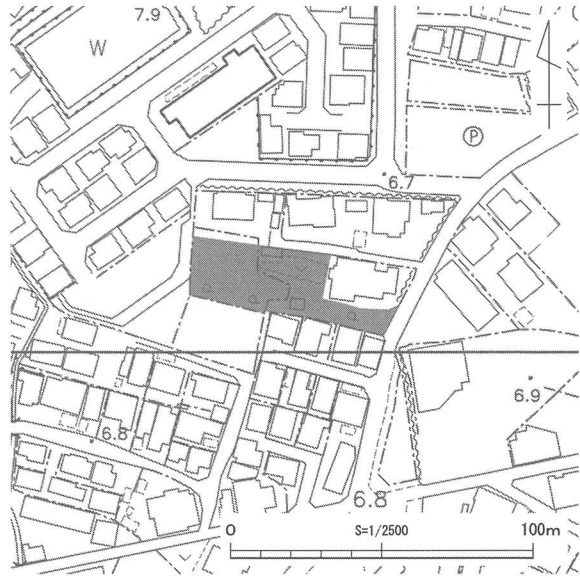


図10 調査位置図

1 調査に至る経緯

加古川町美乃利381番1ほかにおいて宅地造成工事が予定された(図10)。当該地は敷地東側の一部が溝之口遺跡の範囲に含まれており、平成27(2015)年度の本発掘調査で弥生時代や奈良、平安時代の遺構が多数検出された地点に近く、遺跡範囲がさらに広がる可能性があったため、開発事業者と協議を行い確認調査を実施することとした。

2 調査の結果

工事予定地に一辺2mの調査区を計2箇所設定し確認調査を実施した(図11)。以下、各調査区の内容について述べる(図12)。

調査区1 敷地東側の溝之口遺跡範囲内に設定した調査区である。地表下0.8mまで表土や旧耕作土が堆積し、その直下は土師器、須恵器を含む灰黄褐色シルトの遺物包含層(第3層)となっていた。その直下に堆積する褐灰色シルト層(第4層)は、当初自然堆積(地山)層と判断したが、その後調査区の東側のみ深掘りを実施したところ、第4層も第3層と同様に遺物包含層であることが明らかとなった。地表下1.4mの第4層直下は遺構埋土(第5・6層)となっており、断面の形状から幅広で底部がすぼまる溝状遺構(SD1)であることがわかった。溝の埋土からは平安時代の土師器、須恵器が出土した。また、深掘りの断面観察により、溝状遺構に切られる性格不明遺構(SX1、第7層)

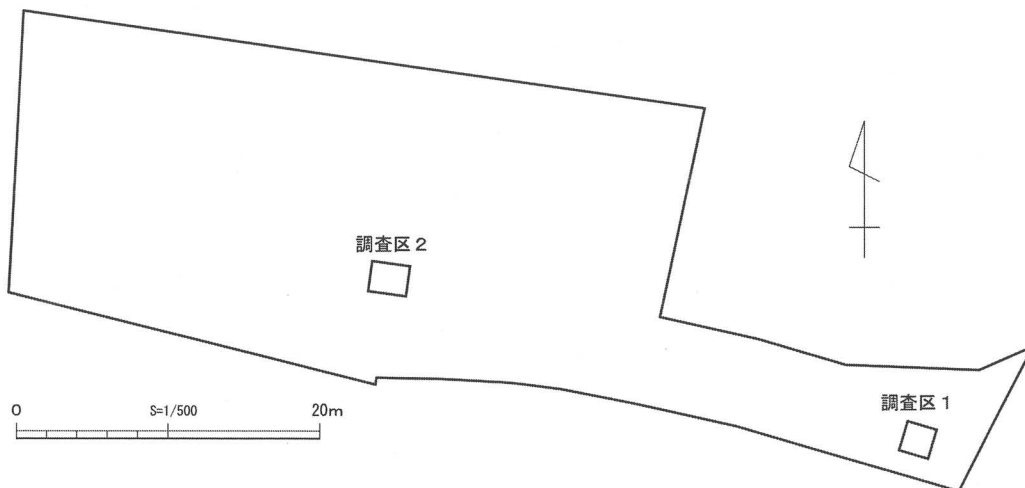


図11 調査区配置図

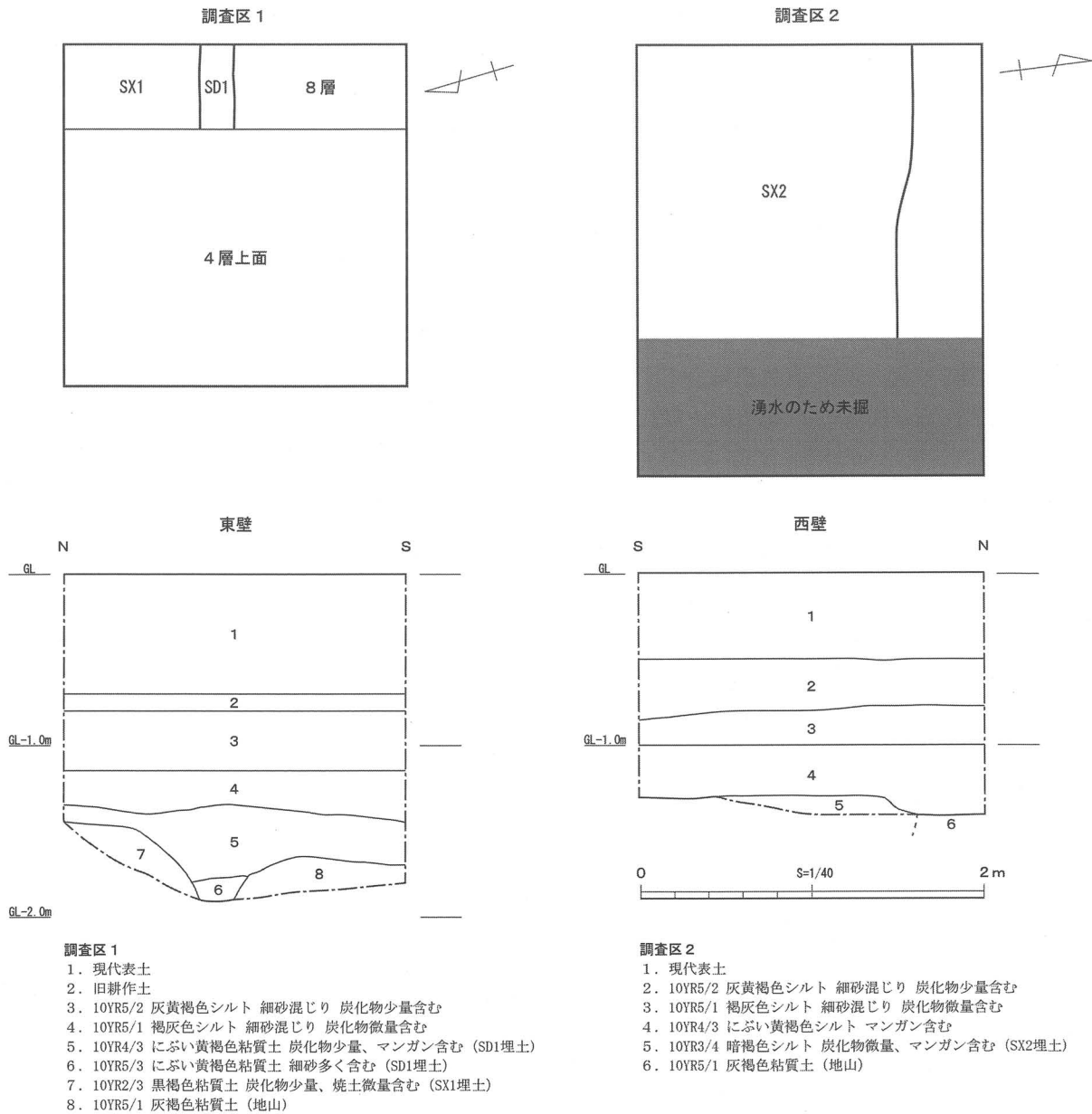


図12 調査区1・2平面図、土層断面図

を併せて確認し、その埋土からは弥生土器片が出土した。

調査区2 敷地中央寄りの溝之口遺跡範囲外に設定した調査区である。地表下0.5mまで堆積する表土を除去すると、調査区1の第3・4層に対応する遺物包含層（第2・3層）が確認され、その下位ににぶい黄褐色シルトの盛土（第4層）が堆積していた。第4層の直下は地表下1.4mで灰褐色粘質土の自然堆積（地山）層となり、この面で遺構検出作業を実施したところ、調査区の大半を覆う性格不明遺構（SX2）を検出した。遺物は、包含層から土師器、須恵器が、SX2の検出作業中には弥生土器が出土した。

3 まとめ

当該地は溝之口遺跡の北端にまたがって位置しており、調査の結果、弥生土器を含む性格不明遺構

2基（SX1・2）、土師器、須恵器を含む溝状遺構1条（SD1）を検出し、現況の遺跡範囲が北西側に続くことが確実となった。平成27年度に近隣で実施した本発掘調査では、弥生時代と奈良、平安時代を主体とする遺構が多数検出されており、今回検出の遺構と時期や様相がよく似ていることから、遺跡の展開状況を考えるうえで貴重な情報を得ることができたといえる。

なお、今回の調査結果を受けて、平成28年7月7日付で周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更について兵庫県教育委員会へ報告し、7月8日付で包蔵地の範囲変更通知を受けている。（山中）

参考文献

山中リュウ編 2018『溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅳ・美乃利遺跡発掘調査報告書Ⅰ』加古川市文化財調査報告29 加古川市教育委員会

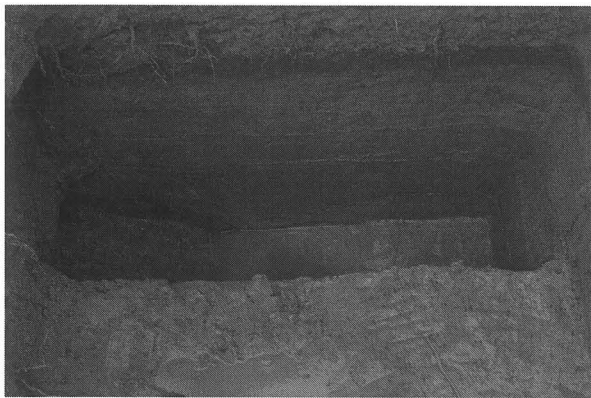


写真22 調査区1 遺構検出状況（西から）



写真23 調査区1 土層堆積状況（西から）

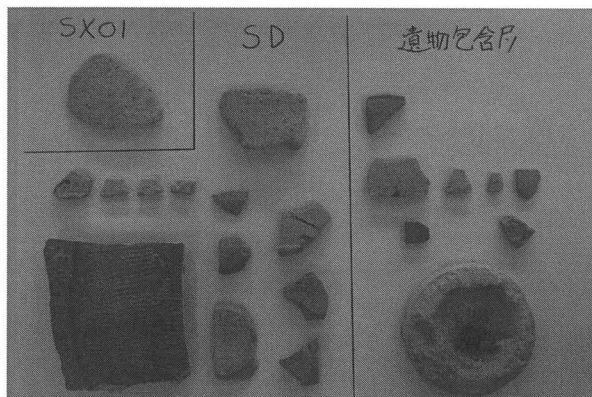


写真24 調査区1 出土遺物

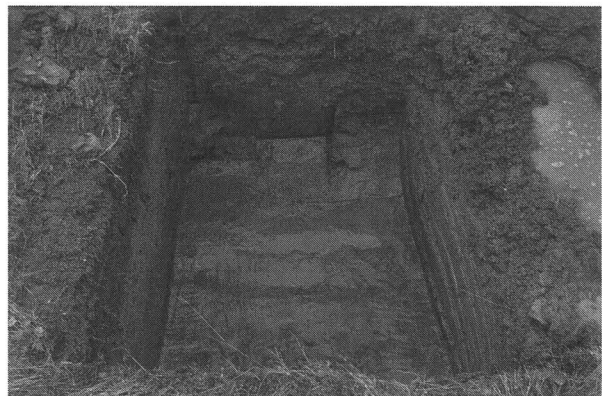


写真25 調査区2 遺構検出状況（南から）



写真26 調査区2 土層堆積状況（東から）

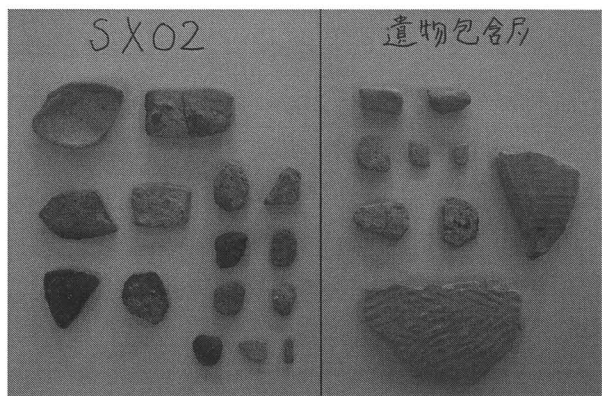


写真27 調査区2 出土遺物

調査報告 4 加古川西市民病院跡地 試掘調査報告

調査場所 加古川市米田町平津384番1ほか
調査期間 平成28(2016)年7月4～7・11・12日
調査面積 約48㎡
担当者 平尾英希

1 調査に至る経緯

加古川西市民病院(米田町平津384番1)の移転に伴って、その跡地の活用事業が計画された(図13)。当該地は加古川と法華山谷川に挟まれた沖積平野のほぼ中央に位置しており、約1km圏内には岸遺跡や東神吉遺跡、砂部遺跡など、おもに縄文時代から古墳時代にかけて営まれた集落遺跡が存在している。周知の埋蔵文化財包蔵地に該当していないものの、事業地面積が広く、さらには周辺での埋蔵文化財の調査記録がなかったため、事業計画者である加古川市政策企画課と事前協議を行い、試掘調査を実施することとなった。

2 調査の結果

事業計画地内に計11箇所の調査区を設定し試掘調査を実施した(図14)。その結果、調査区8から弥生時代中期の溝1条、調査区10から時期不詳の土坑1基が検出され、調査区1・2・5～10の各調査区から弥生土器や土師器、須恵器の破片が出土した。以下、調査区ごとにその成果について述べていく(図15・16)。ただし、調査区11ではアスファルト直下で既存の地下埋設物が認められたため、地表下0.4m前後まで掘削したところで調査を中止した。

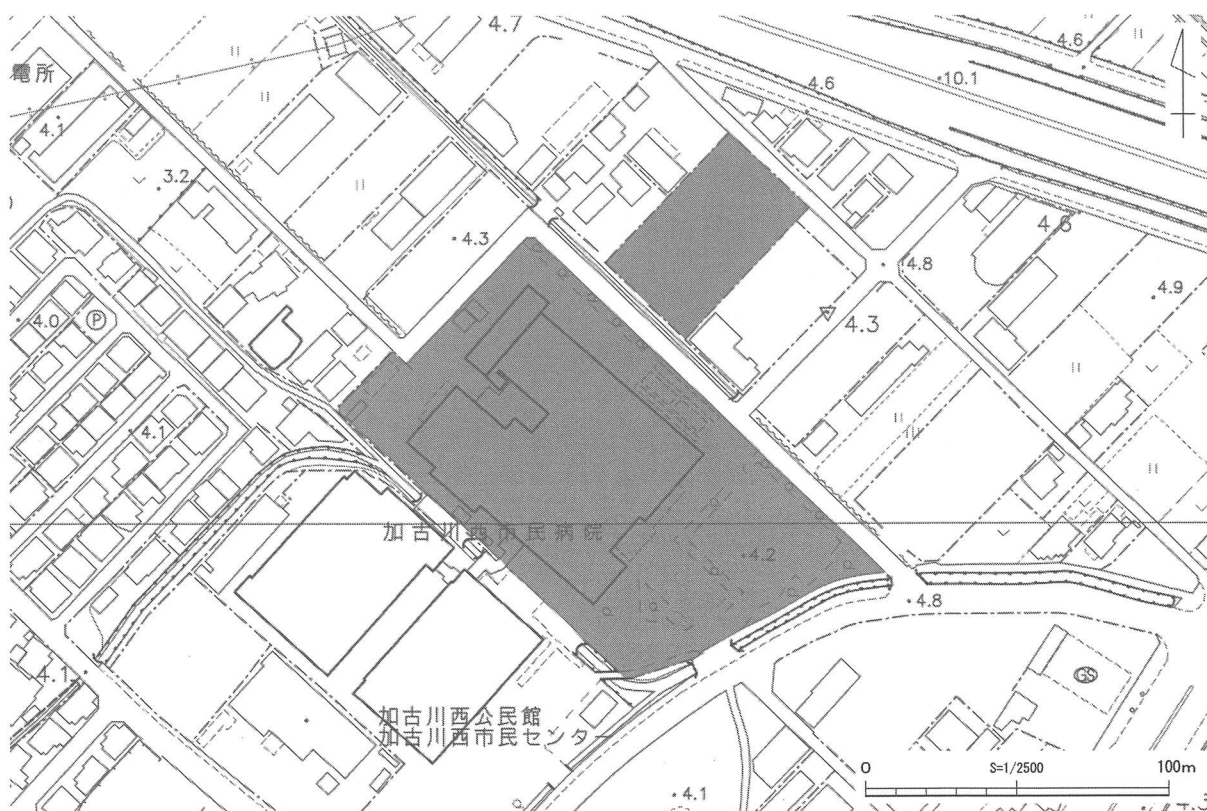


図13 調査位置図

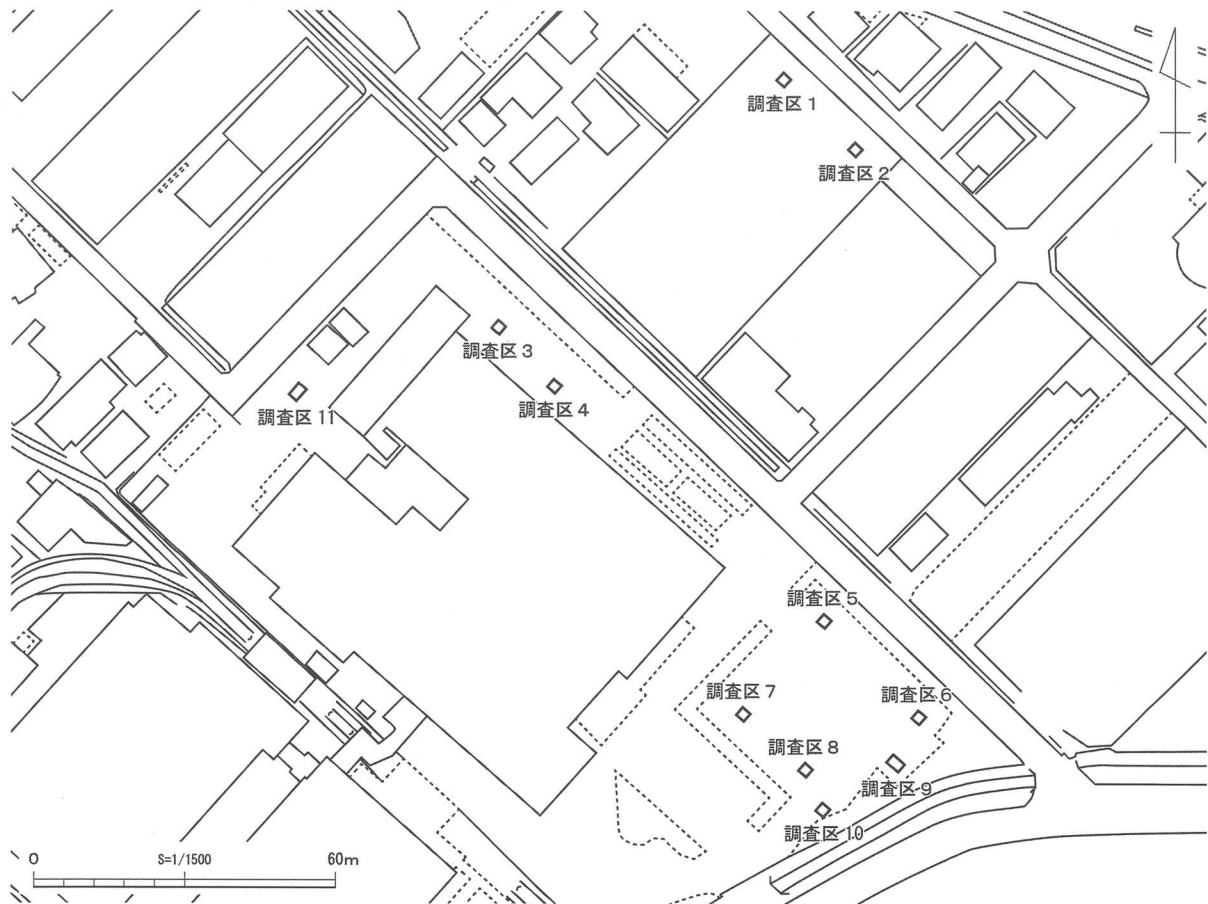


図14 調査区配置図

調査区 1 造成土直下から地表下1.08mまで旧耕作土、床土が堆積し、その下位には土師器や須恵器の小破片を含む遺物包含層（第6・7層）が確認され、地表下1.39mにおいて地山と考えられる黄褐色粘質土層（第8層）が確認された。第8層上面で遺構検出作業を行ったが、遺構は検出されなかった。

調査区 2 造成土直下から地表下1.26mまで旧耕作土、床土が堆積し、その下位において土師器の小破片を含む遺物包含層（第5層）が確認された。包含層直下の地表下1.46mより下位には、河川作用などによる自然堆積と考えられる褐灰色中砂層（第6・7層）が確認された。

調査区 3 造成土直下から地表下1.14mまで旧耕作土、床土が堆積し、その下位には遺物を含まないシルト層、細砂層、粘質土層が地表下1.62mまで堆積していた。それより下位には地山と考えられる黄褐色粘質土層（第10層）が確認され、その上面で遺構検出作業を行ったが、遺構は検出されなかった。

調査区 4 造成土直下から地表下1.00mまで旧耕作土が堆積し、その下位には遺物を含まない細砂層、シルト層が地表下1.46mまで堆積していた。地表下1.46mより下位には、地山と考えられる黄褐色粘質土層（第7層）が確認された。第7層上面で遺構検出作業を行ったが、遺構は検出されなかった。

調査区 5 造成土直下から地表下0.89mまで旧耕作土が堆積し、その下位には土師器や須恵器の小破片を含む遺物包含層（第4・5層）が確認された。包含層直下の地表下1.09mより下位には、河川作用などによる自然堆積と考えられる灰褐色極粗砂層（第6層）が確認された。

調査区 6 造成土直下から地表下0.97mまで須恵器の小破片を含む旧耕作土が堆積し、その下位には遺物を含まないシルト層、中砂層が地表下約1.20mまで堆積していた。地表下1.20mより下位には、河川作用などによる自然堆積と考えられる灰褐色極粗砂層（第6層）が確認された。

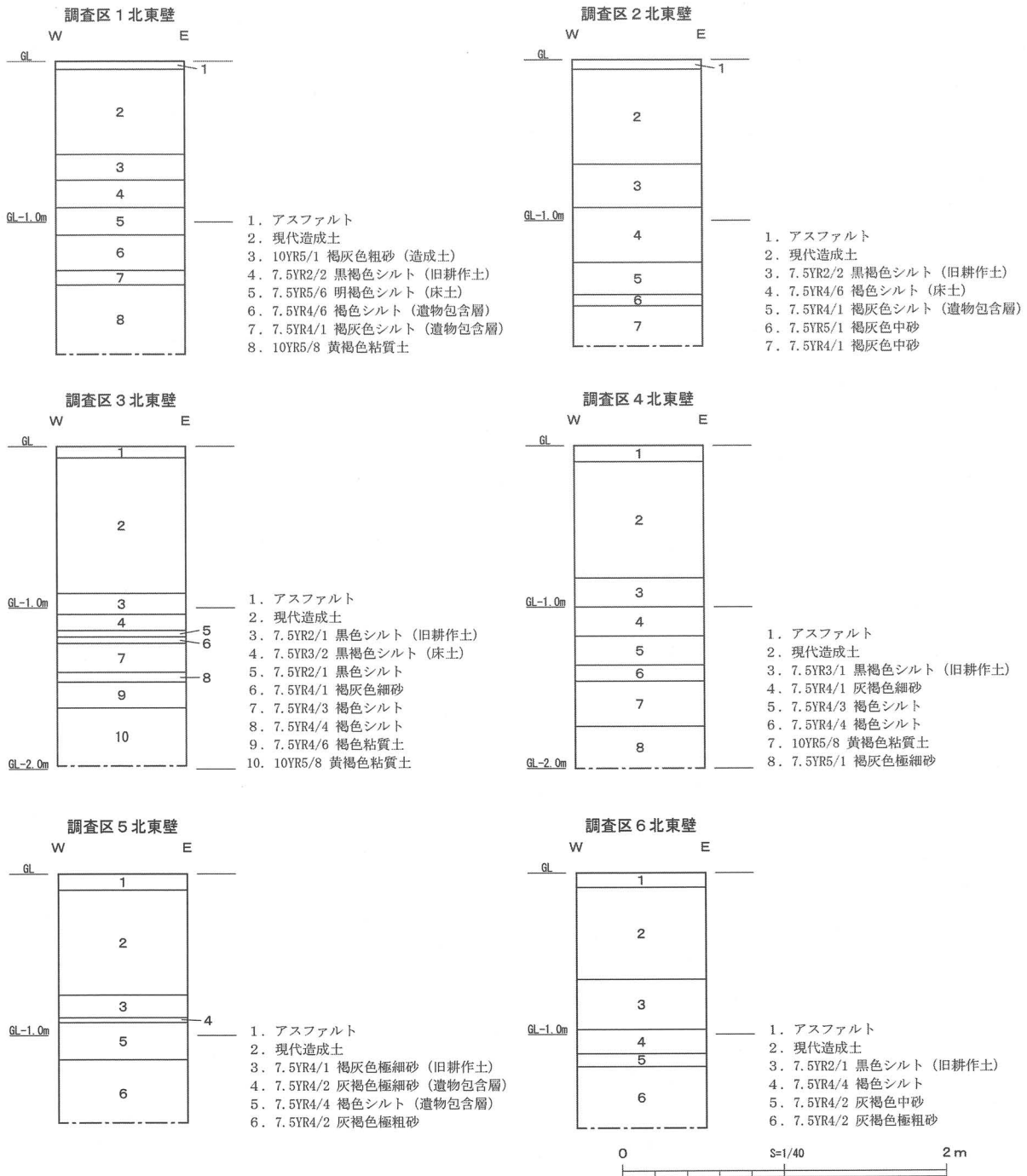


図15 調査区 1～6 土層断面図

調査区 7 造成土の下位には土師器または須恵器の小破片を含む遺物包含層（第 4～6 層）が地表下 1.22m まで堆積していた。その下位には遺物を含まないシルト層、粘質土層が堆積しており、地表下 1.75m において河川作用などによる自然堆積と考えられる灰褐色極粗砂層（第 10 層）が確認された。

調査区 8 造成土直下に旧耕作土、遺物を含まない褐灰色極細砂層、土師器や須恵器の小破片を含む遺物包含層（第 5～6 層）が堆積していた。包含層直下の地表下 1.40m の黄褐色粘質土層（第 9 層）上面で精査したところ、北東 - 南西方向に延びる溝（SD 1）が 1 条検出され、遺構埋土から弥生時代中期中葉頃の広口壺などの弥生土器（図 17）が出土した。しかし、整理段階において土層堆積状

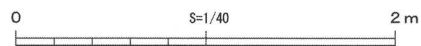
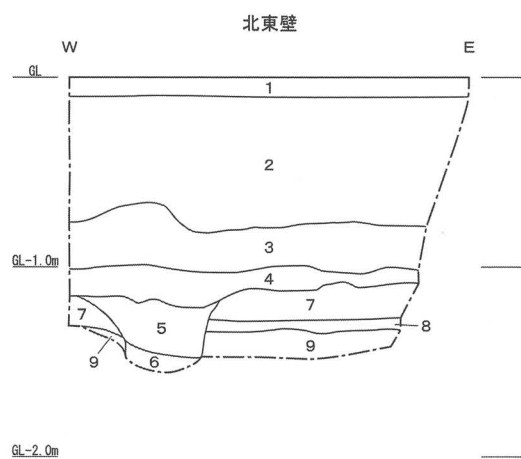
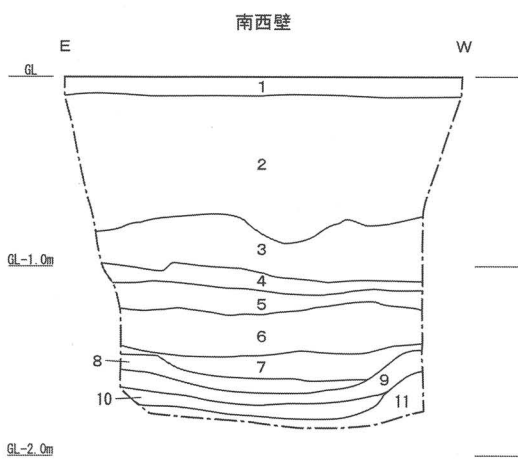
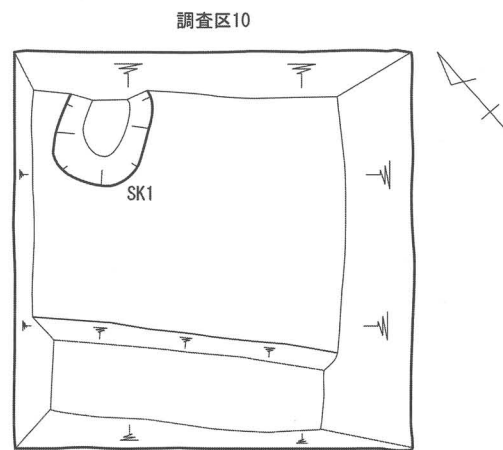
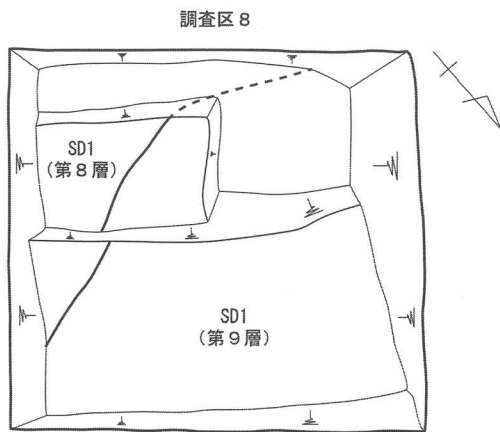
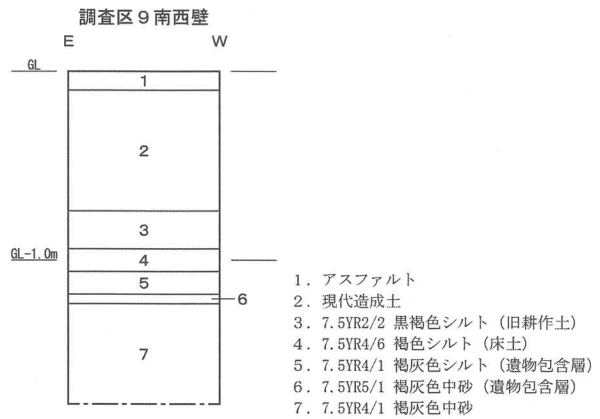


図16 調査区8・10平面図及び調査区7~10土層断面図

況などを再検討したところ、黄褐色粘質土層（第9層）と黒褐色粘質土層（第10層）についてもSD1の埋土であり、調査時点での検出面全体が遺構埋土であった可能性が高いという認識に至った。SD1の下位は、河川作用などによる自然堆積と考えられる褐灰色粗砂層（第11層）となっていた。

調査区9 造成土直下から地表下1.06mまで若干の土器片を含む旧耕作土、床土が堆積し、その下位には土師器や須恵器

の破片を含む遺物包含層（第5・6層）が確認された。包含層直下の地表下1.23mより下位には、河川作用などによる自然堆積と考えられる褐灰色中砂層（第7層）が確認された。

調査区10 造成土直下に旧耕作土、遺物を含まない褐灰色極細砂層が堆積し、その直下の地表下1.16mにおいて、褐色シルト層上面から掘り込まれた土坑（SK1）を1基検出した。しかし、遺物が出土していないため時期は不詳である。褐色シルト層より下位は黒褐色シルト層を挟んで地表下1.32mにおいて地山と考えられる黄褐色粘質土層（第9層）が検出された。旧耕作土中から弥生土器と須恵器の小破片が出土している。

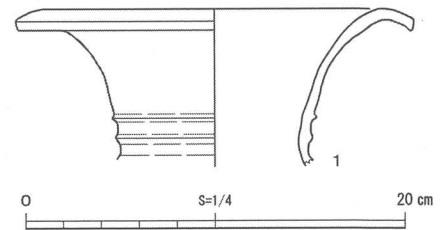


図17 調査区8 SD1出土遺物

3 まとめ

試掘調査の結果、調査区8から弥生時代中期の溝1条（SD1）、調査区10から時期不詳の土坑1基（SK1）が検出され、調査区1・2・5～10から弥生土器、土師器、須恵器の破片が出土した。各調査区の土層堆積状況を見ると、調査区1・3・4・10で地山とみられる黄褐色粘質土層が確認され、ほかの調査区では河川作用などによる自然堆積層が確認された。このことから、今回調査地の西側には比較的安定した地山が広がる一方で、東側には河川が流れる自然環境にあったと考えられる。

今回の調査では敷地の南東側で遺構が検出されており、その分布状況から、さらに東方向または南方向に遺構が広がることが考えられ、これまで発見されていない遺跡が存在する手がかりを得ることができたといえる。今後、周辺で開発が行われる場合は試掘調査などを依頼し、遺跡の様相と範囲を把握していく必要がある。（平尾）

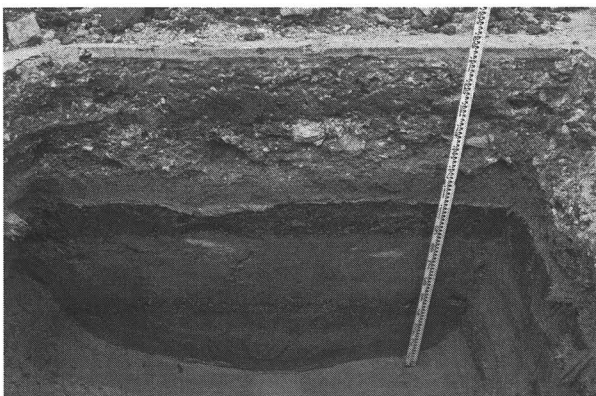


写真28 調査区1土層堆積状況（南西から）

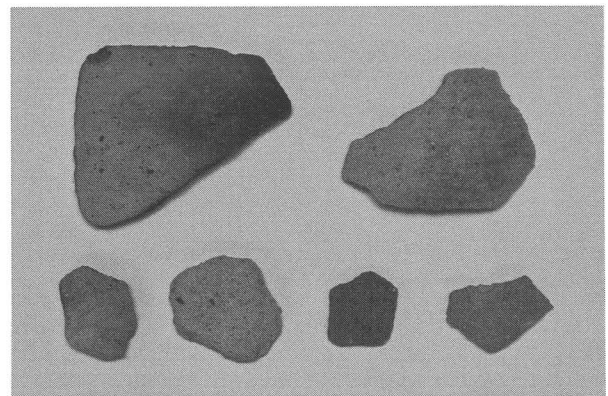


写真29 調査区1包含層出土遺物

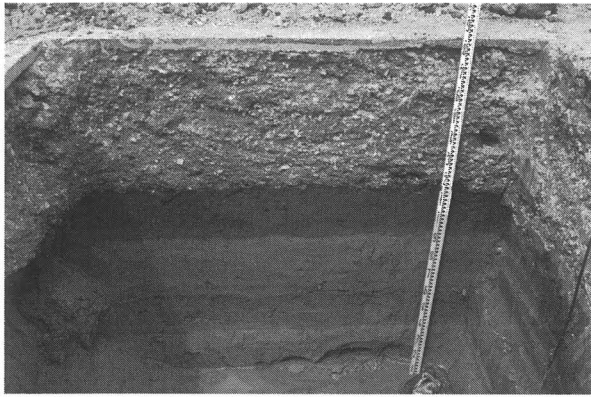


写真30 調査区 2 土層堆積状況 (南西から)

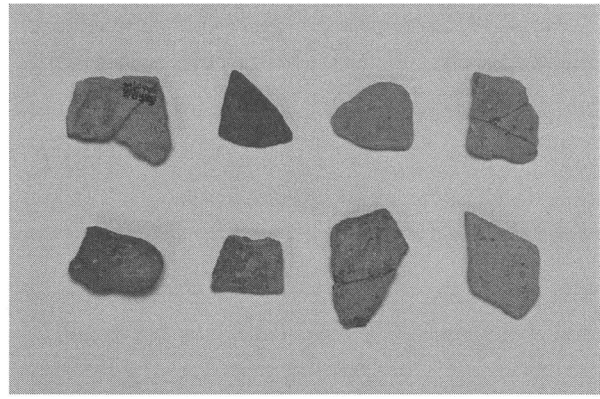


写真31 調査区 2 包含層出土遺物

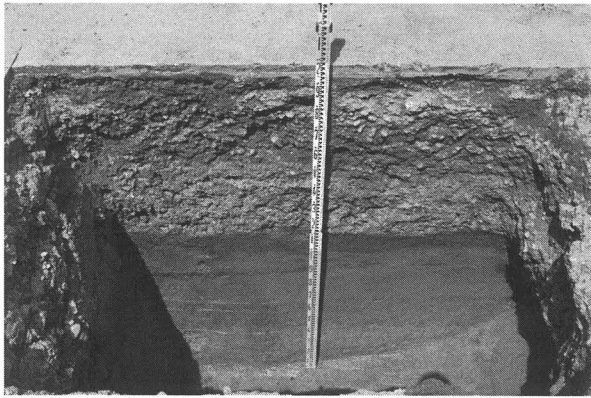


写真32 調査区 3 土層堆積状況 (南西から)

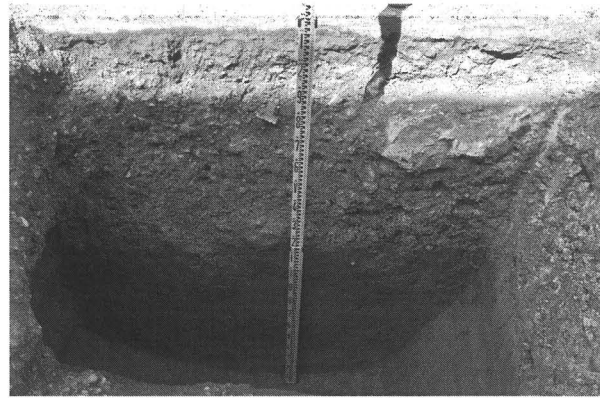


写真33 調査区 4 土層堆積状況 (南西から)

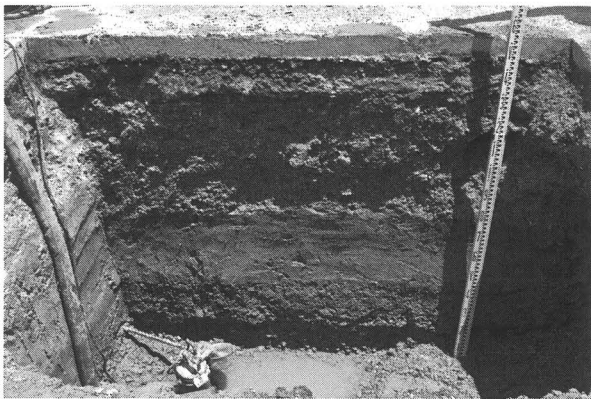


写真34 調査区 5 土層堆積状況 (南西から)

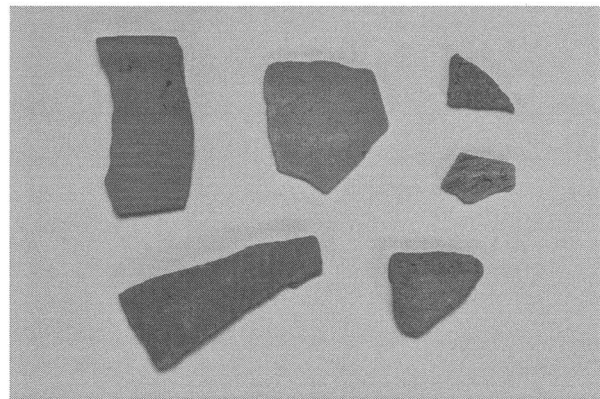


写真35 調査区 5 包含層出土遺物



写真36 調査区 6 土層堆積状況 (南西から)

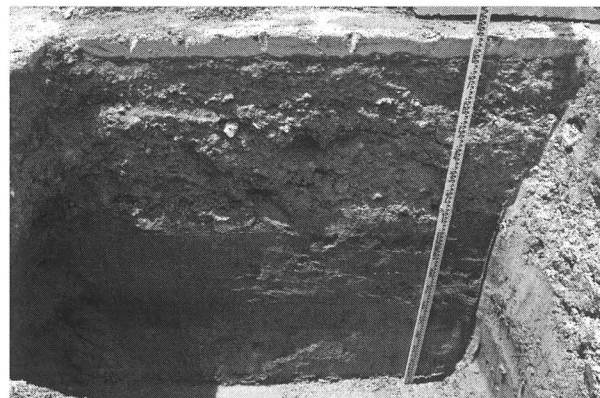


写真37 調査区 7 土層堆積状況 (北東から)

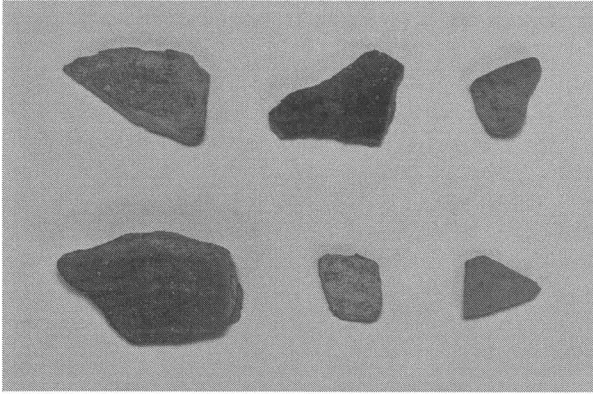


写真38 調査区7 包含層出土遺物



写真39 調査区8 SD1 検出状況 (北東から)



写真40 調査区8 土層堆積状況 (北東から)

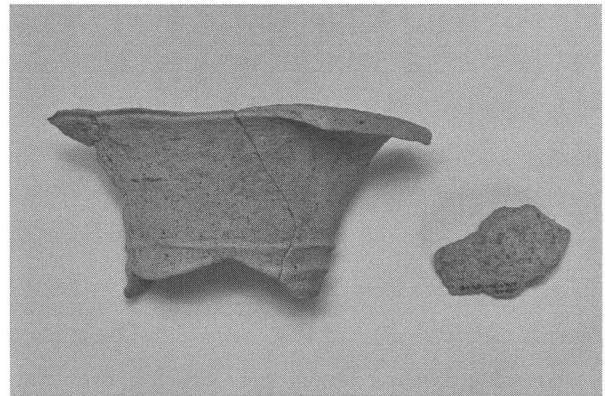


写真41 調査区8 SD1 出土遺物



写真42 調査区9 土層堆積状況 (北東から)

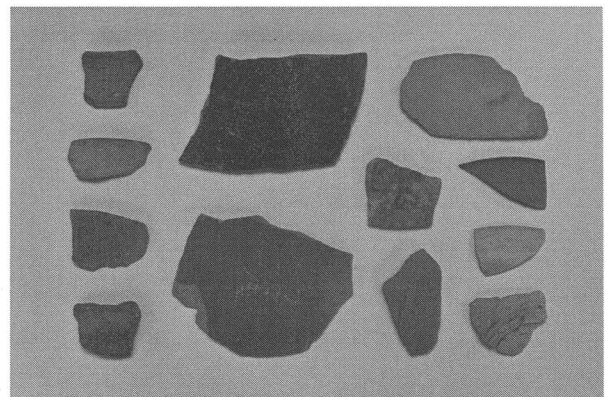


写真43 調査区9 包含層出土遺物

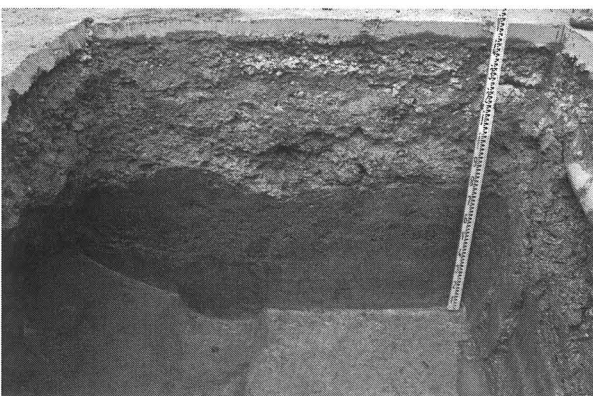


写真44 調査区10土層堆積状況 (南西から)

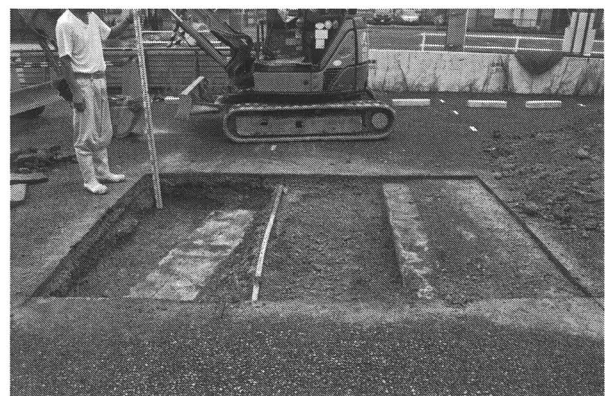


写真45 調査区11掘削中止状況 (南東から)

調査報告 5 溝之口遺跡 工事立会報告

調査場所 加古川市加古川町溝之口字上横田地内

調査期間 平成28(2016)年8月22～24日

調査面積 約77㎡

担当者 山中リュウ、平尾英希

1 調査に至る経緯

加古川町溝之口字上横田地内で行われていた宅地造成工事中に、開発事業者から防火水槽設置箇所を深く掘削するという旨の連絡を受けた(図18)。当該地では、平成27(2015)年1月8・9日、3月5日、9月25日に確認調査を行った後に、平成28年1月13日から2月8日にかけて本発掘調査が実施されており、弥生時代中期から後期にかけての水田跡や溝、古墳時代後期以降の溝などが検出され、弥生土器や土師器、須恵器などが出土している(山中2017)。このことから今回の工事においても遺構・遺物が検出されることが考えられたため、開発事業者と協議を行い工事立会を実施することとなった。



図18 調査位置図

2 調査の結果

防火水槽設置箇所約77㎡の範囲内において工事立会を行った結果(図19)、溝状遺構1条、土坑3基、ピット1基が検出された(図20・21)。

SD1は、工事立会実施箇所の北東壁沿いで一部を検出したのみであり、その形態や規模の詳細は不明であるものの、東 - 西方向に延びる幅0.42～0.66mの溝状遺構である。SK1も北東壁沿いでその一部を検出したのみであるが、検出状況から直径1.44m前後、深さ0.84m前後の土坑とみられ、遺構埋土からは多量のイイダコ壺などが出土した。SK2は長軸1.14m、短軸0.54mの隅丸長方形の土坑であり、SK3は長軸0.72m、短軸0.36mの楕円形の土坑である。SP1は、直径0.21m前後のピットである。

遺物は、SK1から多量のイイダコ壺、土師器や須恵器の小破片や製塩土器、焼土塊が数点出土したほか(図22)、SD1とSK2から土器の細片が各1点、SP1から須恵器杯身の細片が1点出土した。SK1から出土したイイダコ壺は、いずれも上部に吊り手がつくもので、吊り手部の検討から少なくとも20個体以上存在すると推定される。しかし、SK1全体を検出、掘削できていないことを考えると、個体数はさらに多くなるものとみられる。これらの遺物は、おもに焼土や炭化物を多く含む黒色シルト層(第3層)から破片の状態では出土しており、あたかも一括廃棄したものを焼却しているような状況であった。接合した破片のなかには被熱具合が異なるものがあることから、破片の状態では被熱したものと考えられる。

各遺構の時期について、SK1は製塩土器の形態的特徴から奈良時代に帰属すると考えられるものの、そのほかの遺構については土器の細片が出土しているのみであり、詳細な時期は不明である。ただし、北東壁の土層堆積をみると、SK1は表土層直下の地表下0.56m前後において灰褐色シルト層

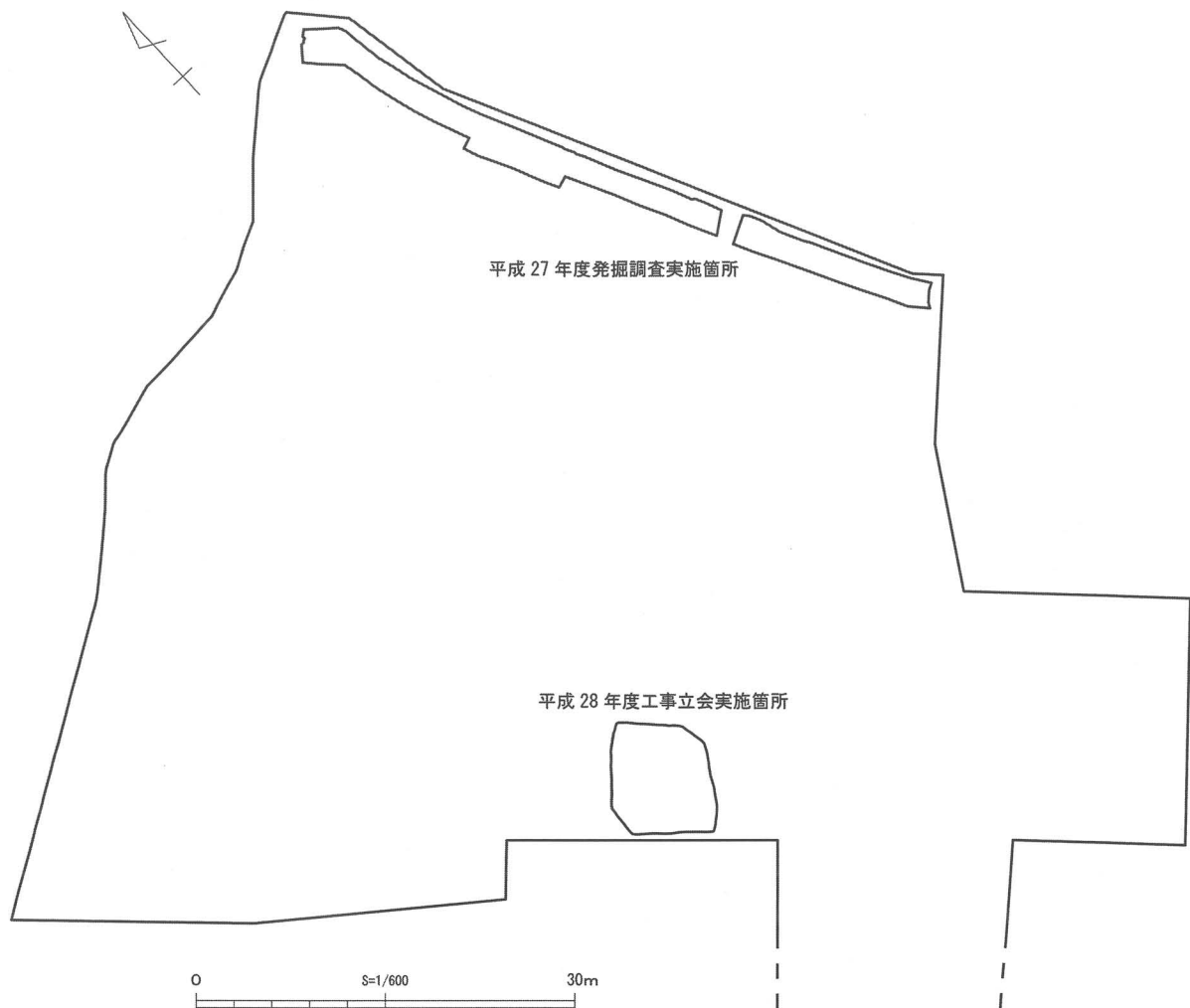


図19 調査区配置図

(第5層)から掘り込まれているのに対して、SD1は明褐色粘質土層(第6層)から掘り込まれていることから、SD1の時期はSK1よりも遡ることが明らかである。

3 まとめ

工事立会を行った結果、防火水槽設置箇所において溝状遺構1条(SD1)、土坑3基(SK1~3)、ピット1基(SP1)が検出された。なかでもSK1は一括廃棄したイイダコ壺を焼却しているような状況で検出され、その廃棄の際に行った行為などを考えるうえで貴重な事例である。

SK1が奈良時代に帰属するものである以外は時期不詳であるものの、SD1のようにSK1の時期より遡るものも存在することから、周辺には複数の時期にわたる遺構が存在するものとみられる。また、平成27年度に実施した発掘調査において奈良時代の遺構が検出されていなかったため、これを補足する情報が得られたといえる。(平尾)

参考文献

山中リュウ 2017『溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅲ』加古川市文化財調査報告27 加古川市教育委員会

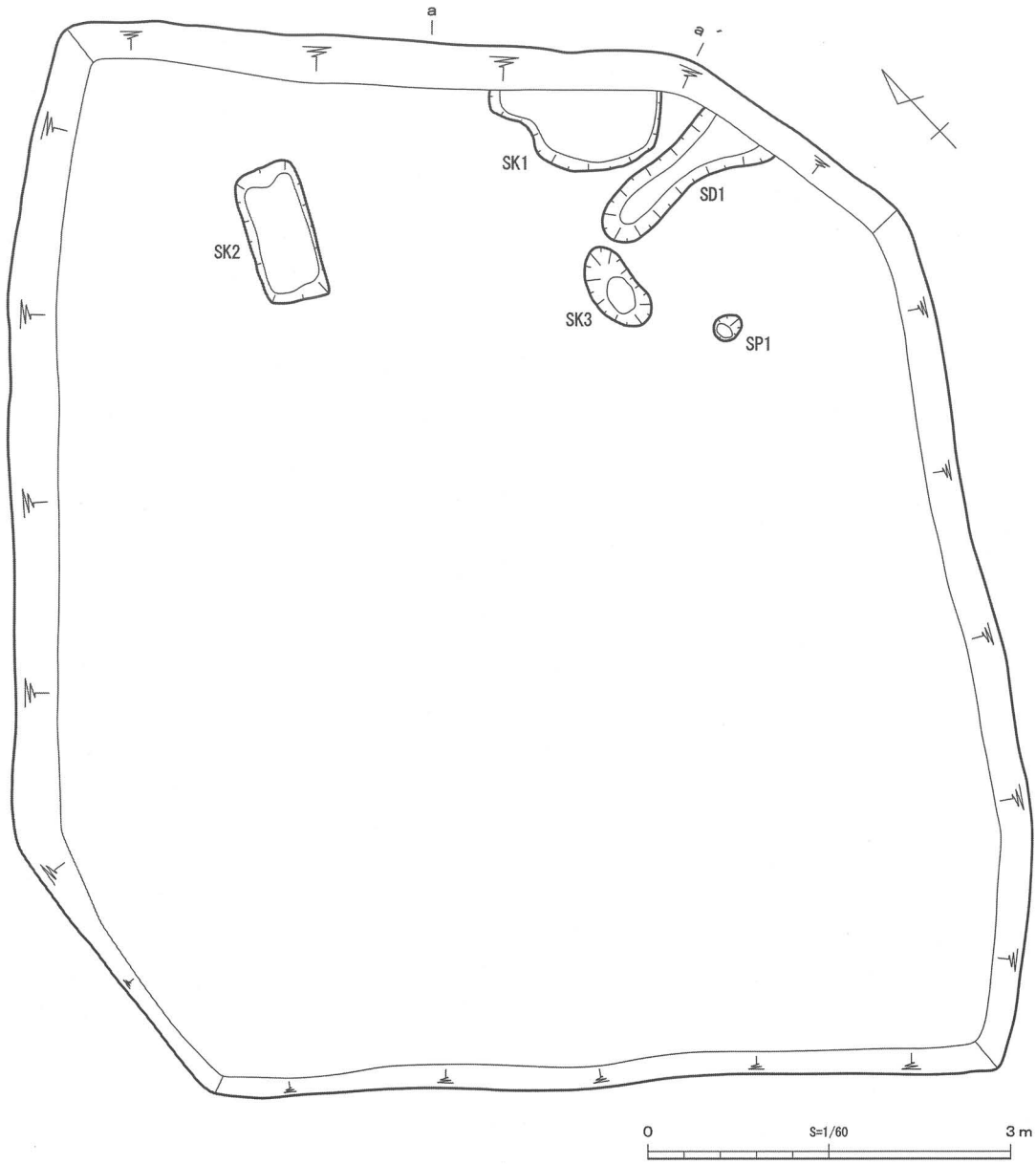
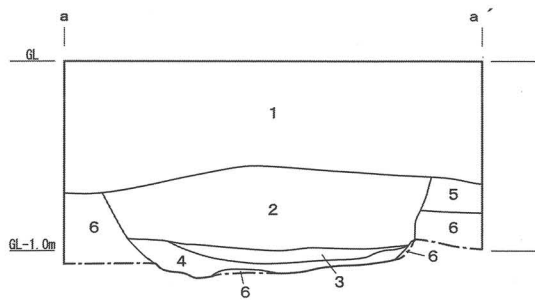


図20 平面図



1. 7.5YR3/3 暗褐色シルト (造成土・旧耕作土)
2. 7.5YR3/2 黒褐色シルト (SK1埋土)
3. 7.5YR2/1 黒色シルト 炭化物・焼土を多量含む (SK1埋土)
4. 5YR3/4 暗赤褐色シルト と 5YR4/8 赤褐色シルト が混じる (SK1埋土)
5. 7.5YR4/2 灰褐色シルト
6. 7.5YR5/6 明褐色粘質土～シルト

図21 土層断面図 (a-a' 地点)

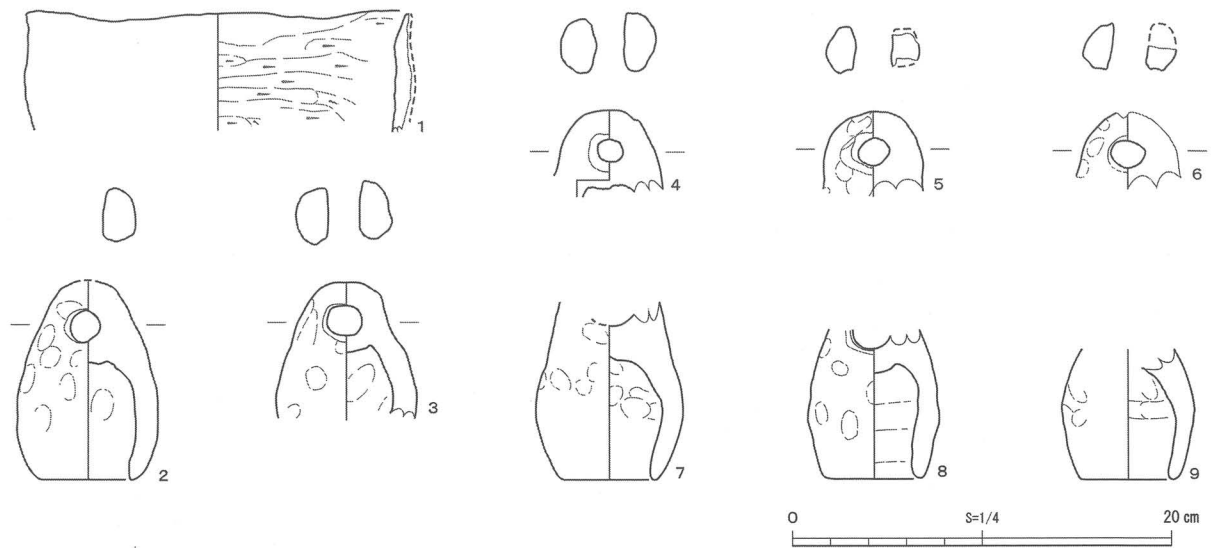


図22 SK1出土遺物



写真46 遺構検出状況（西から）

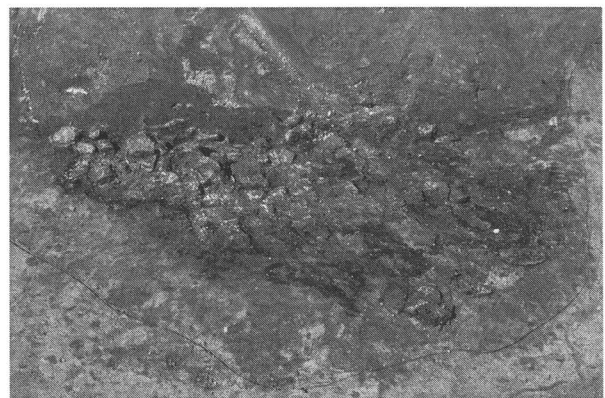


写真47 SK1 イイダコ壺出土状況（南西から）

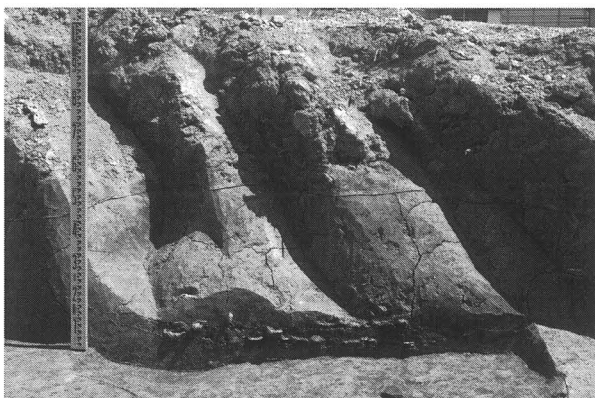


写真48 SK1 土層堆積状況（南西から）



写真49 SK1 出土遺物

調査報告 6 正興寺 釈迦涅槃図 概要調査報告

正興寺からの情報提供と連絡を受けて、近世大坂画壇の絵師である菅尚卜が、寛政元（1789）年に描いた釈迦涅槃図の概要調査を行ったので、下記のとおり報告する。

- 1 資料名称 釈迦涅槃図（正興寺所蔵）
- 2 調査日時 平成28年7月5日 午後1時15分から午後2時30分まで
- 3 調査場所 山之上公会堂（平岡町山之上433番1）（正興寺の東隣）
- 4 調査担当者 宮本佳典（加古川市教育委員会文化財調査研究センター副所長、学芸員）
- 5 立会者 正興寺（加賀谷豪範住職、山本卓良檀家総代、間處一良役員、山本千代役員）、修理業者担当者
- 6 調査理由 所有者からの情報提供
- 7 報告内容

（1）調査に至る経緯

正興寺は、加古川市平岡町山之上434番地にある真言宗の寺院で、境内には鎌倉時代後期のものと考えられる宝篋印塔が建っている。近世には山之上村の中心寺院であったが、それ以前については不詳である。

同寺では、平成28・29（2016・2017）年を中心に本堂の改築工事が行われた。本堂には幕末から明治時代頃と考えられる格天井に花鳥画を描いた天井絵などもあった。所蔵する釈迦涅槃図については1年ほど前から檀家役員から写真を添えて加古川市教育委員会に情報提供があった。平成28年5月23日には、本堂の改築に合わせ、涅槃図を法要で祀ることができるよう、改修する本堂の構造を考えるとともに、涅槃図を修理する計画であることの連絡を受けた。

以前から、この涅槃図については、寛政元（1789）年のものであるという情報があったが、提供いただいた写真から、画面左下の墨書と落款から大坂画壇の絵師である菅尚卜によるものと判断できた。

近世の著名な絵師によって描かれた涅槃図であるため、近世の仏教絵画というだけでなく、近世絵画史を考えるうえで興味深い資料であると判断し、正興寺住職及び役員の方に協力いただき、修理の専門業者と打ち合わせる平成28年7月5日に、現状確認、写真撮影及び採寸程度の文化財概要調査を行った。

（2）調査の結果

調査方法は、聞き取り、目視による観察、測定及び簡単な写真撮影である。

調査の結果の要点は、以下のとおりである。

- ① 名称 釈迦涅槃図（仏涅槃図）
- ② 所有者 正興寺
- ③ 数量 1幅
- ④ 現況 良好。画面全体に折れが目出つが、全体に彩色は良く残っている。
- ⑤ 材質等 紙本着色。掛幅装。
- ⑥ 観察記録
 - ・本紙部分は、折れが目出つが、彩色は良好に残っている。
 - ・表装部分は、近年に取替えられているようであるが、詳しくはわからない。
 - ・軸金具は、金銅製のように見え、蓮華文が彫出されている。制作時のものと考えられる。吊金具も、軸金具と同様に制作時のものと考えられる。
 - ・軸箱は、制作時のもので、桐製で全面が褐色に塗られている。大きく損壊し、塗色は褪色している。蓋の上面に、年月と施主を記した墨書が残る。

- ⑦ 時代 江戸時代／寛政元（1789）年 9 月
画面の墨書から制作時期がわかる。また、画風や劣化状況からも妥当と判断できる。
- ⑧ 法 量 縦200.9cm、横175.2cm、表装部縦268.0cm、表装部横197.6cm、軸長209.7cm、軸径5.5cm
- ⑨ 記 事 ・画面左下墨書及び落款に「寛政元己酉季秋上浣 華陽隱士蘭林齋尚ト謹畫（朱文方印「蘭林齋」）（白文方印「常政印）」とある。
・箱蓋表墨書の判読できる部分に「寛政己酉秋九月上浣 施主 摂州大坂大和屋傳兵衛」とある。

⑩ 調査記録

ア 聞き取り内容及びこれに伴う所見

- ・箱書きを除いて、関連する古文書などは無し。
- ・関連する伝承などは無し。
- ・正興寺の関係者からは「昔からこの涅槃図があるが、詳しい来歴は知らない。」という内容の回答であった。

イ 現況内容

(2) / ④及び⑤のとおり

ウ 表面観察及びこれに伴う所見

(2) / ④及び⑤のとおり

- ⑪ 所 見 調査の結果、この画幅は、江戸時代後期の大阪を中心に活躍した画家である菅尚ト（須賀氏、蘭林齋、常政、大岡春トの弟子）（1731～1806）が、寛政元（1789）年に描いた釈迦涅槃図であることを確認した。

この涅槃図は、近世の大阪画壇を代表する絵師である菅尚トの手によることが明らかな資料であり、今後、その存在を周知しながらも、大切に保存していく必要がある。今後、文化財としての取扱いも検討する余地がある。

8 解 説

釈迦涅槃図は釈迦入滅の情景を描いたもので、古くから諸寺院の涅槃会の本尊として祀られている。涅槃会とは、釈迦如来の涅槃に入った2月15日を偲び、涅槃経を講じて法会を行い、仏恩に報いるものである。涅槃画像の遺例は、応徳3（1086）年の高野山金剛峰寺本を最古に、鎌倉時代以降、急速にその数が増える。

本図では、涅槃に入る釈迦が左上部が見える宝台上に右肘を折って掌を右側頭部に当てて横たわる姿が描かれ、その周りには、悲嘆する多くの会衆や、約40種の鳥獣を描いている。画面向かって右上部からは、阿那律尊者に導かれて悲しむ摩耶夫人の一行が飛来する。中空に月があり、沙羅双樹の間からは波を立てる跋提河が見える。そのほか、経典に説くところが情趣的に描かれている。

このように本図は、鎌倉時代以降に中国宋代の影響を受け、一般化された涅槃図の形式である。しかし、動物画の表現や施彩や描法に、穏やかで優美な和様化が進んだ表現がなされている。

画面には、折れ痕が残る。

画面向かって左下には「寛政元己酉季秋上浣 華陽隱士蘭林齋尚ト謹畫（朱文方印「蘭林齋」）（白文方印「常政印）」の墨書と落款がある。

箱の蓋の表には、判読が困難な状態で「寛政己酉秋九月上浣 施主 摂州大坂大和屋傳兵衛」とある。

画面の墨書にある蘭林齋尚トは、江戸時代中期に大阪を中心に活躍した絵師である菅尚トである。尚トは、須賀氏、蘭林齋と号し、名は常政である。大岡春ト（1680～1763）に学ぶ。人物花鳥画を得意とする。多くの作品を残し、代表作として岡山県倉敷市児島の由加山蓮台寺の客殿の襖絵がある。76歳、一説には78歳で文化3（1806）年に没した。 (宮本)

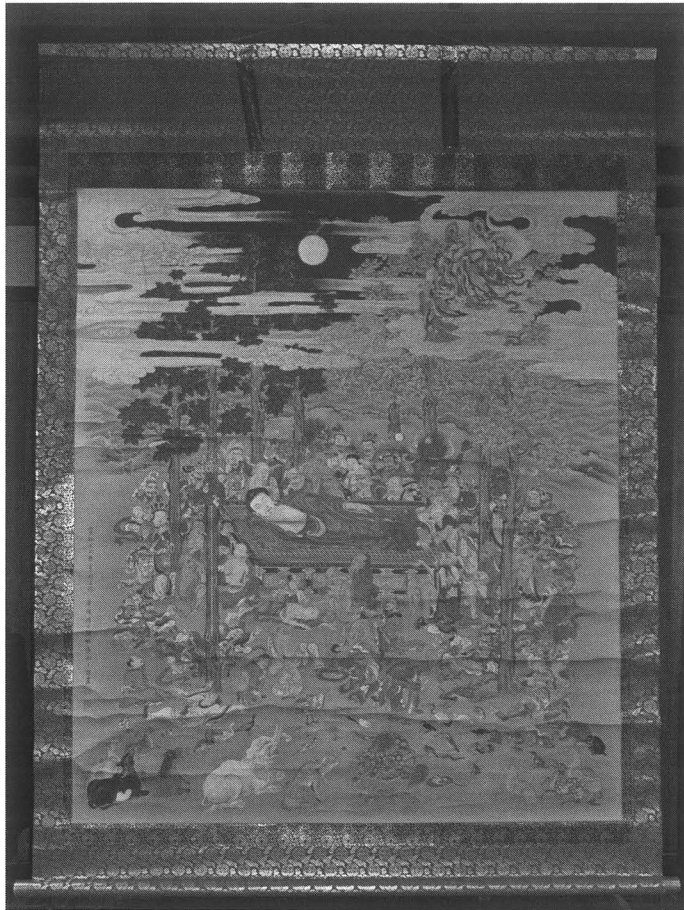


写真50 积迦涅槃図



写真51 墨書及び落款

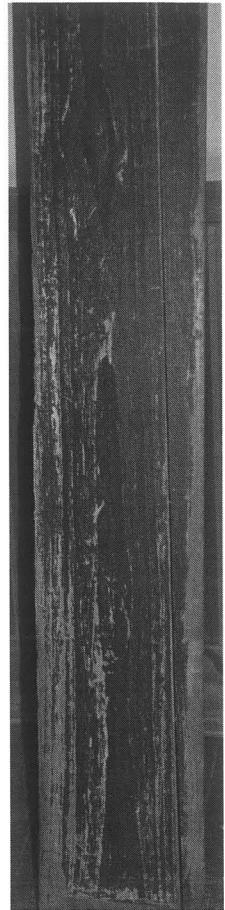


写真52 箱蓋墨書

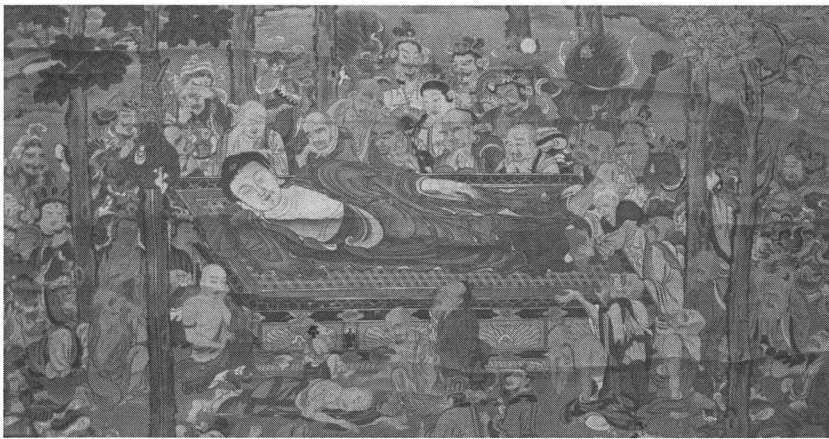


写真53 积迦涅槃図（中央部）

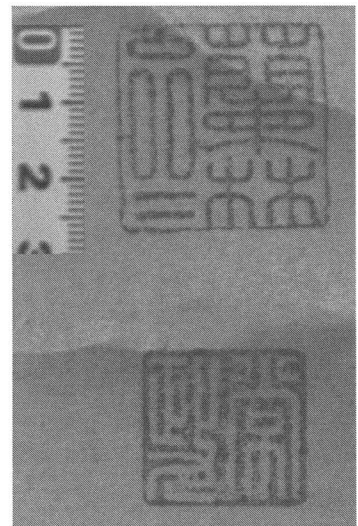


写真54 落款 ※等倍



写真55 摩耶夫人一行

第2章 文化財の保護と活用

1 指定・登録文化財

平成29年3月31日現在、市内の指定・登録文化財は、国指定23件（国宝2件）39点、県指定32件54点、市指定65件1395点、国登録9箇所37件である（表2）。

表2 加古川市指定・登録文化財一覧

区分		種別	箇所数・件数	計		
国指定	国宝	建造物	2件	2件	23件	120件
	重要文化財	建造物	4件	21件		
		絵画	5件			
		彫刻	6件			
		工芸品	5件			
		史跡	1件			
県指定		建造物	18件	32件		
		絵画	3件			
		彫刻	6件			
		工芸品	3件			
		書跡	1件			
		史跡	1件			
市指定		建造物	4件	65件		
		絵画	9件			
		彫刻	15件			
		工芸品	9件			
		書跡・典籍	6件			
		考古資料	14件			
		無形文化財	1件			
		民俗資料	2件			
		史跡	4件			
		天然記念物	1件			
国登録		建造物	8箇所36件	9箇所37件		
		記念物	1件			

(1) 市指定文化財の指定

文化財審議委員会にて諮問し、答申を受けた石造十三重塔（常楽寺）の1件について、新たに加古川市指定文化財に指定した。

石造十三重塔（巻頭図版1）

名称及び数量 石造十三重塔 1基

指定分類 建造物

寸法 現高338cm（基礎底部から現存する十層目の笠の上部まで）

材質 石造、凝灰岩（竜山石）製

時代 鎌倉時代 14世紀（正中2（1325）年の可能性あり）

所在地 加古川市加古川町大野1762番地 常楽寺境内の本堂東側

所有者 常楽寺（宝生山常楽寺）

指定年月日 平成29（2017）年3月2日

指定理由 常楽寺本堂の東側に建つ凝灰岩（竜山石）製の石造層塔である。現在は、十一重塔の姿をしているが、建立時は十三重塔として建立されていたと考えられており、そ

の後、第一層、第十二層及び第十三層の笠部と相輪部が欠失し、現在の最上部の第十一層の笠部と相輪部が別の石造品の部材が充てられていると考えられているため、下から、基礎、塔身、現在の第一層から第十層までの笠の部分までを指定対象とする。

塔身には、胎蔵界四仏の種子が陰刻されている。塔身のアクの種子の左右に各一行の銘文があり、以前は「二年乙丑閏」と読むことができたというが判読が困難である。この銘文から、文安2（1445）年乙丑閏七月の建立と考えられていたこともあるが、層塔の形式から、正中2（1325）年乙丑閏一月の建立の可能性もある。この層塔の作者及び由来などは不明であるが、常楽寺の境内には、兵庫県指定文化財で文観慈母塔と伝えられている正和4（1315）年銘の石造宝塔及び同時代の五輪塔2基が現存している。常楽寺は、後醍醐天皇に重用され、醍醐寺座主や東寺一の長者として活躍した律僧で真言僧でもあった文観の出身寺院である。この石造十三重塔は、一部の欠失はあるものの、意匠的に優秀で、歴史的価値が高く、加古川地域の特色である鎌倉時代末期の優れた石造品群の中で典型となる貴重なものである。

追 補 種子の表現や笠部の反りなど、層塔の形式は鎌倉時代後期のものと考えられる。塔身の上部に奉籠孔がある面にアクの種子があり、その右側にある判読困難な銘文が、以前は「二年乙丑潤七月」と読むことができたといわれていたことから、銘文の干支と閏月の内容を考えて、正中2（1325）年乙丑閏1月の建立の可能性が考えられている。

日岡山の南西にある常楽寺は、大化2（646）年に法道仙人が開き、僧文観（1278～1357）によって再興されたと伝えられている。南北朝時代から室町時代の『西大寺末寺帳』には、播磨国の筆頭に記されているなど、中世の播磨を考えるうえでたいへん重要な寺院である。

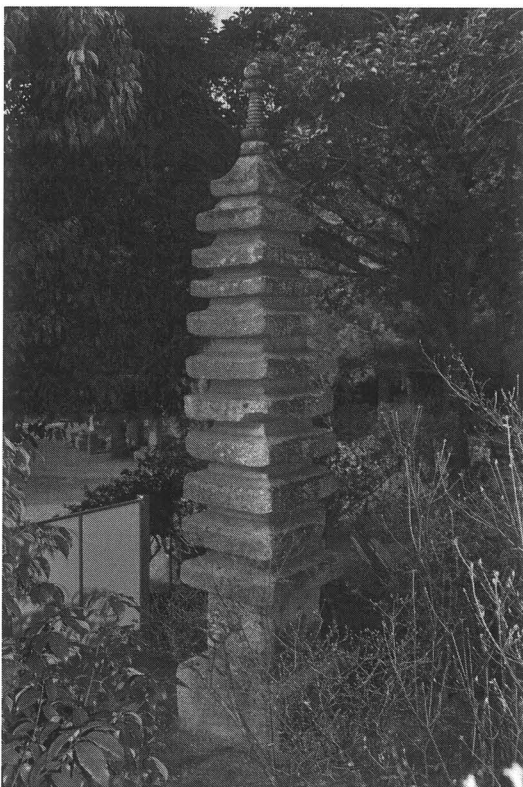


写真56 石造十三重塔

常楽寺を復興した文観は、賀古荘北条郷大野の出身と考えられており、後醍醐天皇に重用され、醍醐寺座主や東寺一の長者として活躍した律僧で、真言僧でもあった。

なお、この塔は、第一層、第十二層及び最上層の第十三層の笠部と相輪部が欠失し、現在の最上部の第十一層にあたる笠部と相輪部が別の石造品の部材が充てられたのではないかと考えられている。これにより、下から、基礎、塔身、現在の第一層から第十層までの笠の部分までが指定対象となっている。

『加古川市内の石造遺品の調査報告書』（永江幾久二、加古川市教育委員会、1962年）には、「これはもと蓮花寺にあったものを移築したものである。」と記載がある。この蓮花寺については不明であるが、常楽寺の昔の塔頭の中に蓮花寺の名称がある。（宮本）

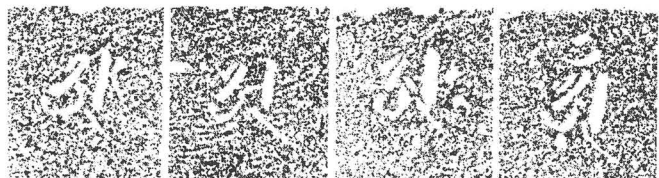


図23 塔身種子拓本

2 市内遺跡事業（国庫補助事業）

国の文化財補助金事業として、市内遺跡などについて埋蔵文化財の記録の作成又は保存に必要な資料を得るために行う発掘調査及び発掘された資料の整理などを行った。内容は、開発に伴う確認調査、試掘調査、分布調査である（第1章参照）。事業費9,648千円（国費4,750千円、県費2,375千円）。

3 本岡家住宅屋根小修理事業（県費補助事業）

県の文化財補助金事業として、県指定文化財本岡家住宅の茅葺屋根の小修理を行った。事業費3,813千円（県費1,906千円）。

4 指定文化財保存管理補助

公開している指定文化財である「鶴林寺の指定文化財」（鶴林寺）、「宮山遺跡」（上西条町内会）、「北大塚古墳」（西之山町内会）、「築山の榎」（国包伊勢講）の指定文化財保存管理事業（事業費計640千円）に対して補助を行った。補助額計320千円。

5 文化財説明板及び標柱の状況

市内文化財についての情報発信、周知徹底のため、文化財の説明板及び標柱の設置を行っている。平成28年度は、下記のとおり説明板の修理（1件）と標柱の新設（2件）及び立替え（11件）を行った。平成28年度末現在の設置状況は、説明板181件と標柱154件である。

説明板の修理	1件	「長楽寺地蔵菩薩半跏像」
標柱の新設	2件	「法道仙人の腰掛岩」、「神木の釈迦一尊種子板碑」
標柱の立替え	11件	「古大内の石造五輪塔」 ^註 、「古大内の石棺」 ^註 、「西条城跡」、 「中道子山城跡本丸」、「中道子山城跡二の丸」、「中道子山城跡大手門」、 「中道子山城跡搦手門」、「中道子山城跡城門」、「中道子山城跡櫓台」、 「中道子山城跡米倉跡」、「中道子山城跡井戸跡」

註：「古大内の石造五輪塔」と「古大内の石棺」については、説明板1件から標柱2件への立替えである。

6 本岡家住宅の公開及び活用

平成10（1998）年に八幡町下村から東神吉町天下原の少年自然の家の敷地内に移築保存された県指定有形文化財本岡家住宅については、事前に見学の予約を受けただうえで、水曜日の午前10時と午後2時、日曜日の午後2時に見学者を受け入れている。また、少年自然の家の無料散策日にも公開を行っている。

毎年、5月5日のこどもの日に「こどもの日特別公開」を行っているほか、11月下旬のひょうごへりテージマンスに合わせて「秋の特別公開」を行っている。平成28年度の「秋の特別公開」は、11月24日から11月30日まで実施した。

平成28年度の本岡家住宅の利用状況は、表3のとおりである。前年度比は341人の増加である。

表3 本岡家住宅月別利用者数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数(人)	73	1,070	128	30	0	6	556	349	108	0	73	0	2,393

7 加古川市文化財講座の開催

市民に加古川地域の歴史や文化財について理解を深めてもらい、文化財保護意識の高揚を図るため、毎年秋季に文化財講座を開催している。

平成28年度の文化財講座の開催状況は以下のとおりである。

第1回文化財講座

日 時：11月5日（土） 午後2時から午後4時まで

場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室

講 師：岸本一宏氏（兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部調査課副課長）

演 題：「弥生時代における人々の暮らし～加古川市を中心に～」

参加者：65名

第2回文化財講座

日 時：11月19日（土） 午後2時から午後4時まで

場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室

講 師：北垣聡一郎氏（石川県金沢城調査研究所名誉所長）

演 題：「加古川における中世城郭～中道子山城～」

参加者：75名

第3回文化財講座

日 時：12月3日（土） 午後2時から午後4時まで

場 所：加古川市立青少年女性センター 大会議室

講 師：藤原良夫氏（元加古川市文化財審議委員会審議委員）

演 題：「播磨地域の石造物」

参加者：67名

8 発掘調査現地説明会の開催

雁戸井土地改良区は場整備事業に伴う上村池遺跡及び古堂廃寺の発掘調査において、平成29年3月4日に現地説明会を実施した。地元住民をはじめとして188名の参加があった。

9 『文化財ニュース』の発行

市内の文化財の状況を伝えるとともに市民の文化財保護意識の高揚を図るため、年に1回『文化財ニュース』を発行し、市内全戸配布している。平成28年度は『文化財ニュース』60号を発行した。

なお、バックナンバーを含めてこれまで発行してきた『文化財ニュース』は、加古川市のホームページで閲覧可能である。



写真57 文化財講座開催状況



写真58 上村池遺跡現地説明会開催状況

10 文化財関係団体との連携

「加古川市文化財保護協会」、「加古川文化遺産活性化実行委員会」、「加古川市文化財ガイドボランティア」など、文化財の保護または活用を行っている諸団体の活動に対し、必要に応じて協力している。

11 寄贈資料などの受入れ

平成28年度は、表4のとおり寄贈資料などの受入れを行った。

表4 寄贈資料などの受入れ一覧

番号	区分	受入日	依頼者	資料の名称	数量
1	資料寄贈	平成29年3月7日	個人	中道子山城跡写真及び35mmフィルム	アルバム 20冊
2	資料返却	平成29年3月27日	個人	昭和46(1971)年上西条遺跡調査関連遺物	コンテナ(14L) 1箱
				昭和46(1971)年上西条遺跡調査関連図面	コンテナ(28L) 2箱 図面ケース 1式

12 資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾

平成28年度は、表5のとおり資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載を承諾した。

表5 資料貸出し、写真資料の貸出し及び掲載許可一覧

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
1	貸出し・ 掲載承諾	平成28年2月1日 ～ 平成28年5月6日	行者塚古墳関連写真フィルム	2点	大阪府立近つ飛鳥博 物館	特別展「古墳とは何か－葬 送儀礼からみた古墳－」で の展示、印刷物等への掲載
			行者塚古墳出土家形埴輪	1点		
		平成28年4月4日 ～ 平成28年7月8日	行者塚古墳出土高杯	2点		
			行者塚古墳出土壺	1点		
			行者塚古墳出土魚形土製品	1点		
			行者塚古墳出土鳥形土製品	1点		
			行者塚古墳出土アケビ形土製品	4点		
			行者塚古墳出土ビシの実形土製品	3点		
			行者塚古墳出土モチ形土製品	4点		
			行者塚古墳出土切身状土製品	2点		
行者塚古墳出土箕形土製品	2点					
行者塚古墳出土棒状土製品	4点					
2	貸出し	平成28年4月1日 ～ 平成28年6月8日	カンテラ	1点	加古川総合文化セン ター	ミニ展示「懐かしのローカ ル線 別府鉄道と国鉄高砂 線」での展示
			手旗(赤・緑で一式)	1点		
			別府港駅看板(木製、ブリキ製)	2点		
			発車時刻表(木製)	1点		
			手荷物取扱看板(木製)	1点		
			表示板(駅長室、定期券拝見)	2点		
			別鉄 木桶	2点		
			切符類	1点		
			国鉄鉄道制服・別府鉄道制服	2点		
			国鉄制帽・別府鉄道作業帽	2点		
車掌鞆	1点					
尾灯	2点					
3	貸出し	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日	土臼	1点	加古川総合文化セン ター	常設展での展示
			ミシン	1点		
			足踏み式脱穀機	1点		
はえだま	1点					
4	貸出し	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日	溝之口遺跡出土弥生土器	6点	明石市立文化博物館	常設展での展示

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
5	貸出し	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日	行者塚古墳発掘調査資料等 行者塚古墳出土円筒埴輪・形象埴輪・土師器	217点 約100点	大手前大学	行者塚古墳発掘調査資料の整理
6	掲載承諾	平成28年7月8日	七騎塚碑、七騎供養塔関連写真	3点	出雲弥生の森博物館	企画展「出雲の武将 塩治判官高貞－その実像と虚像－」での展示、印刷物等への掲載
7	貸出し	平成28年8月24日 ～ 平成28年9月29日	ごんぶり桶 踏み桶 こしきわらぐつ ぶんじ かき桶 半役 椀蓋 暖気樽 大神楽 汲杓 きつね桶 酒袋 酒樽 こも樽 酒つぼ 呑 ハッピー きき猪口 盃	1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点	加古川総合文化センター	ミニ展示「加古川の酒造道具」での展示
8	掲載承諾	平成28年8月15日	カンス塚古墳、池尻2号墳出土鉄鉾実測図	6点	個人	学術研究での利用
9	掲載承諾	平成28年9月8日	行者塚古墳関連写真	9点	一般財団法人 角川文化振興財団	『発見・検証 日本の古代』第2巻への掲載
10	貸出し・ 掲載承諾	平成28年9月23日 ～ 平成28年12月10日	行者塚古墳関連写真フィルム	1点	京都府立山城郷土資料館	特別展「山城の二大古墳群－乙訓古墳群と久津川古墳群－」での展示、印刷物等への掲載
11	貸出し・ 掲載承諾	平成28年9月29日 ～ 平成29年3月27日 ～ 平成29年7月7日	行者塚古墳関連写真 カンス塚古墳関連写真 砂部遺跡関連写真 行者塚古墳出土帯先金具 行者塚古墳出土鉄錠 行者塚古墳出土巴形銅器 カンス塚古墳金製垂飾付耳飾 砂部遺跡出土甌	5点 2点 2点 1点 1点 2点 1点 1点	大阪歴史博物館	特別展「渡来人いずこより」での展示、印刷物等への掲載
12	貸出し	平成28年9月30日 ～ 平成28年11月7日	たこ壺	1点	加古川総合文化センター	ミニ展示「これってなあに？高床倉庫」での展示
13	貸出し	平成28年10月7日 ～ 平成28年11月7日 ～ 平成28年9月1日 ～ 平成28年11月7日	溝之口遺跡、美乃利遺跡関連図面及び写真 溝之口遺跡出土弥生土器 美乃利遺跡出土弥生土器 美乃利遺跡出土管玉 美乃利遺跡出土砥石	15点 13点 9点 1点 1点	加古川総合文化センター	企画展「初公開の土器－溝之口遺跡と美乃利遺跡－」での展示
14	貸出し	平成28年10月3日 ～ 平成28年10月27日	新聞スクラップ 日本航空殉難史 木製プロペラ フroot部分 飛行服 ワシ目眼鏡 飛行帽 釣針	1点 1点 1点 2点 2点 1点 1点 1点	加古川市産業経済部 観光振興課（加古川市民ギャラリー）	「高御位山と渡辺信二展」での展示
15	掲載承諾	平成28年10月4日	行者塚古墳関連写真	1点	奈良国立博物館	『第68回正倉院展』への掲載

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
16	貸出し	平成28年11月7日 ～ 平成28年12月18日	行者塚古墳模型	1点	加古川総合文化センター	ミニ展示「ロケハンGO！ 加古川の昔の写真」での展示
17	貸出し	平成28年12月20日 ～ 平成29年2月12日	急須	1点	加古川総合文化センター	ミニ展示「昔の暖房器具～ 先人の知恵～」での展示
			火消し壺	1点		
			丸火鉢	3点		
			ちろり	1点		
			安全炬燵	1点		
			火箸	1点		
			湯たんば	1点		
			鍋	1点		
			炭入れ	1点		
			食器	1点		
			炬燵	3点		
			豆炭アンカ	1点		
			アンカ	1点		
			練炭	1点		
			練炭おこし	1点		
			角火鉢	2点		
			練炭火力調整器	1点		
鉄茶瓶	1点					
やかん	2点					
18	掲載承諾	平成28年12月14日	行者塚古墳関連写真	1点	株式会社講談社	『海の向こうから見た倭国』 への掲載
			カンス塚古墳関連写真	1点		
19	貸出し	平成29年1月16日 ～ 平成29年2月10日	丸火鉢	1点	加古川市立鳩里小学校	児童の学習での活用
			安全炬燵	1点		
			炬燵	1点		
			釜	1点		
			お櫃・ふご	1点		
			わら草履	1点		
			火のし	1点		
			洗濯機	1点		
			アイロン	1点		
			燭台	1点		
番傘	1点					
20	貸出し・ 掲載承諾	平成29年1月18日 ～ 平成29年3月23日	溝之口遺跡関連写真	2点	播磨町郷土資料館	記念展「大中遺跡「再」発見」 での展示、印刷物等への掲載
			美乃利遺跡関連写真	3点		
			溝之口遺跡出土弥生土器	8点		
			砂部遺跡出土弥生土器	1点		
			東神吉遺跡出土弥生土器	3点		
21	貸出し	平成29年2月14日 ～ 平成29年3月31日	行者塚古墳関連写真フィルム	86点	大手前大学	行者塚古墳発掘調査資料の 整理
22	掲載承諾	平成29年2月20日	カンス塚古墳、池尻2号墳出土鉄 鉾実測図	6点	個人	学術雑誌への掲載
23	掲載承諾	平成29年3月1日	西条廃寺関連図面及び写真	7点	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	『韓・中・日古代寺院址比較 研究（I）-木塔址編-（日 本語版）』への掲載
24	掲載承諾	平成29年3月17日	聖徳太子坐像・二王子立像 (鶴林寺所蔵)	1点	兵庫県立歴史博物館	特別展「ひょうごの美ほと け-五国を照らす仏像-」 での展示、印刷物等への掲載

13 資料調査の受入れ

平成28年度は、表6のとおり資料調査の受入れを行った。

表6 資料調査受入れ一覧

番号	年月日	調査者	所属	資料		目的
				遺跡	遺物	
1	平成28年5月19日	個人	神戸市	カンス塚古墳	鉄銚	学術研究
				池尻2号墳	鉄銚	
2	平成28年8月9日	個人	大阪歴史博物館	行者塚古墳	帯金具ほか	学術研究 及び特別展準備
				カンス塚古墳	垂飾付耳飾ほか	
				池尻2号墳	須恵器ほか	
				砂部遺跡	須恵器ほか	
3	平成28年10月4日	個人	京都大学	白沢2号窯	須恵器	論文執筆

14 講師の派遣など

市民に地域の歴史や文化の理解を深めてもらい、また文化財保護意識の高揚につながるよう、文化財に係る講演会、見学会などの事業に対して講師の派遣などを行っている。平成28年度における講師の派遣などについては表7のとおりである。

表7 講師派遣など一覧

番号	年月日	派遣職員	派遣先	内容
1	平成28年4月26日	山中リュウ	神野小学校	行者塚古墳の案内・解説
2	平成28年11月16日	宮本佳典	野口中地区まちづくり協議会	講演「野口・坂元・良野の歴史と文化財について」
3	平成28年12月2日	山中リュウ	兵庫県立考古博物館	報告「溝之口遺跡・美乃利遺跡の発掘調査成果について」
4	平成29年1月10日	宮本佳典	いなみ野学園	講演「仏像の見方－東播磨を中心に－」
5	平成29年2月25日	山中リュウ	兵庫県立考古博物館	講演「加古川市／美乃利遺跡の調査」

15 「トライやる・ウィーク」の受入れ

兵庫県では、平成10（1998）年度から公立中学校2年生を対象に、生徒たちが地域での様々な体験活動を通じて働くことの意義や楽しさを実感するとともに、生徒の自主性や自立性などを育むことを目的とした「トライやる・ウィーク」を実施している。

文化財調査研究センターではその実施当初から生徒の受入れを行っており、平成28年度は6月6日から10日まで加古川市立平岡中学校の生徒3名を受け入れた。体験内容は、博物館施設などの見学、



写真59 歴史学習における行者塚古墳の案内

古墳や寺社仏閣などにおける文化財巡視、本岡家住宅の障子張替えや清掃、土器の洗浄や接合といった埋蔵文化財の資料整理などである。

(平尾)

第3章 西条古墳群史跡整備事業

1 総説

加古川市山手二丁目に所在する行者塚古墳、人塚古墳、尼塚古墳は、昭和48（1973）年に「西条古墳群」として国史跡に指定された。加古川市では、西条古墳群の保護と活用のため、平成6（1994）年度から史跡整備事業を開始し、平成19（2007）年に尼塚古墳、平成21（2009）年には行者塚古墳の整備を完了させ、平成25（2013）年度から人塚古墳の整備を実施してきた。

本事業は、阪神・淡路大震災の影響などもあり、開始から20年を超える長期事業となったが、今回報告する平成28（2016）年度整備をもって事業は完了した。平成28年度の整備は、段階的に進めてきた人塚古墳の最終整備であり、史跡範囲を明示する境界ブロックの設置や発掘調査で確認された墳丘裾部分や瓦窯跡の平面表示、ベンチや標柱を設置する園路整備などを行った。また、年度末には人塚古墳の発掘調査報告書『加古川市西条古墳群人塚古墳』と、整備事業全体についての事業報告書『史跡西条古墳群保存整備事業報告書』、普及用パンフレット『史跡西条古墳群～保存整備事業の概要～』を刊行した。平成28年度の事業費は、7,192千円（国費3,500千円、県費1,750千円）である。

史跡との境界明示は、隣接する開拓道路との境が不明確となっていた古墳南東側について、境界ブロックと擬木柵を設置した（写真60）。墳丘裾と瓦窯跡の表示は、発掘調査で確認された墳丘裾部分3箇所については、同じ位置の地表に表示石を設置し、瓦窯跡については、発掘調査で検出された窯の輪郭と同じ位置の地表を縁石で囲ったうえ、内部は窯跡がイメージできるよう赤褐色に着色した混合土で固めた。窯跡の脇には、調査成果を記述した説明板を設置した（写真61）。園路の整備は、平成27（2015）年度に説明板を設置した西条廃寺との連絡口前に史跡の所在を示す標柱を設置し、西側園路脇には古墳を見学しながら憩えるようにベンチ2基を設置した。

2 西条古墳群史跡整備委員会

本事業では、西条古墳群の保存及び活用について意見を聞くため、「加古川市西条古墳群史跡整備委員会」を組織し進めてきた。平成28年度の委員は、3名で構成され、氏名・所属などは以下のとおりである。

委員長	前田敏郎	地元町内会長
委員	高瀬要一	元奈良文化財研究所文化遺産部長
委員	菱田哲郎	京都府立大学教授

平成28年度の委員会は4月22日に開催し、前年度の整備内容についての報告と、平成28年度整備事業着手前における最終調整を行った。（山中）



写真60 人塚古墳指定範囲境界



写真61 人塚古墳瓦窯跡表示

第4章 文化財審議委員会

1 委員

加古川市文化財の保護に関する条例に基づき、文化財の保存及び活用について審議するための附属機関として文化財審議委員会を設置している。平成28年度は、平成28年10月19日をもって文化財審議委員の任期満了を迎えたため、改めて8名（再任5名、新任3名）の学識経験者及び有識者の諸先生に委員を委嘱した。その任期は平成28年10月20日から平成30年10月19日までの2年間である。各委員の氏名、主な専門分野、所属は以下のとおりである。

平成26年10月20日から平成28年10月19日まで（平成28年度第1回文化財審議委員会）

委員長	好崎泰州	神道文化、地域史	尾上神社宮司
副委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
委員	魚津知克	考古学、歴史学	大手前大学史学研究所主任
委員	金子 哲	歴史学、中世史	兵庫大学共通教育教授
委員	西村恭子	民俗、民話、地域史	作家
委員	東野アドリアナ	建築学、建造物	明石工業高等専門学校准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学准教授
委員	藤原良夫	石造美術	元神戸市文化財基本調査委員会調査員

平成28年10月20日から平成30年10月19日まで（平成28年度第2～4回文化財審議委員会）

委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
副委員長	金子 哲	歴史学、中世史	兵庫大学共通教育教授
委員	魚津知克	考古学、歴史学	大手前大学史学研究所主任
委員	上月昭信	考古学、郷土史	兵庫県文化財保護指導委員
委員	友久伸子	考古学、郷土史	兵庫県まちづくり技術センター整理技術嘱託員
委員	岡田 功	郷土史、歴史資料	加古川史学会
委員	東野アドリアナ	建築学、建造物	明石工業高等専門学校准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学准教授

2 会議

第1回	日時	平成28年6月24日（金）午後2時から3時30分まで
	場所	教育委員室（加古川市役所新館8階）
	出席者	好崎委員長、茂渡副委員長、金子委員、西村委員、東野委員、藤原喜委員、藤原良委員
	内容	平成27年度文化財関係事業及び決算について 平成28年度文化財関係事業及び予算について その他、指定文化財候補及び行政に係る意見交換など

- 第2回 日時 平成28年11月24日（木）午後2時から3時30分まで
 場所 教育委員室（加古川市役所新館8階）
 出席者 茂渡委員長、金子副委員長、魚津委員、上月委員、友久委員、岡田委員、東野委員
 内容 平成28年度加古川市指定文化財候補について
 常楽寺の石造十三重塔
 指定文化財などの状況について
 国史跡西条古墳群史跡整備事業の進捗状況について
 文化財関係事業について
 上半期文化財事務の進捗状況について
- 第3回 日時 平成29年1月20日（金）午後2時から4時15分まで
 場所 常楽寺、上村池遺跡、教育委員室（加古川市役所新館8階）
 出席者 茂渡委員長、金子副委員長、魚津委員、上月委員、友久委員、岡田委員、藤原委員
 内容 平成28年度加古川市指定文化財候補の現地調査及び審議
 常楽寺の石造十三重塔
 上村池遺跡発掘調査現場の視察
 加古川市指定文化財の指定基準（案）について
- 第4回 日時 平成29年3月27日（月）午後2時から3時30分まで
 場所 青少年女性センター301会議室
 出席者 茂渡委員長、金子副委員長、上月委員、友久委員、岡田委員、藤原委員
 内容 加古川市歴史文化基本構想策定計画について
 市指定文化財の指定について
 常楽寺の石造十三重塔
 国史跡西条古墳群史跡整備事業の完了について
 雁戸井地区ほ場整備事業に伴う上村池遺跡の発掘調査及び現地説明会について

（平尾）



写真62 常楽寺石造十三塔現地調査



写真63 上村池遺跡発掘調査現場視察

第5章 文化財関係の事務処理

1 指定・登録文化財事務

(1) 史跡などの現状変更許可申請

平成28年度は、表8のとおり史跡などの現状変更許可申請を行った。

表8 史跡などの現状変更許可申請一覧

番号	史跡名	変更の目的	所在地	届出者	変更の概要	期間	現状変更終了報告文書番号
1	西条古墳群 人塚古墳	史跡整備	山手二丁目1700 - 100・103・111	加古川市教育 委員会	人塚古墳標識の設置 墳丘裾部表示石の設置 瓦窯位置の表示と説明板の設置 ベンチ2基の設置 境界構造物の設置 既存施設の撤去	7月15日 ～3月31日	次年度 加教文第50号
2	西条古墳群 行者塚古墳	史跡整備	山手二丁目958・959	加古川市教育 委員会	行者塚古墳の樹木4本の伐採	12月1日 ～2月23日	加教文第2622号

(2) 登録有形文化財の所有者変更届出

平成28年度は、表9のとおり大歳家住宅主屋ほか8棟の登録有形文化財において所有者変更届出の処理を行った。

表9 登録文化財所有者変更届出一覧

番号	名称	員数	区分	種別	所在地	旧所有者	新所有者	文書番号
1	大歳家住宅主屋	1棟	国登録	建造物	別府町新野辺881番	個人	個人	加教文第2042号
	大歳家住宅離屋	1棟						
	大歳家住宅隠居部屋	1棟						
	大歳家住宅長屋・長屋門	1棟						
	大歳家住宅茶室	1棟						
	大歳家住宅西什器蔵	1棟						
	大歳家住宅東什器蔵	1棟						
	大歳家住宅穀物蔵	1棟						
大歳家住宅米蔵	1棟							

2 埋蔵文化財事務

(1) 埋蔵文化財包蔵地の照会

平成28年度における埋蔵文化財包蔵地の照会件数は2205件（昨年度比+47件）であった。その内訳は、事業者による計画前の照会が1937件、建設予定地に関する事前合議などが132件、開発事業に関する事前協議などが136件である。

(2) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知

平成28年度における文化財保護法第93・94条に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知の処理件数は、201件（昨年度比-7件）であった（表10）。このうち、第93条に基づく発掘届出は186件、第94条に基づく発掘通知は15件である。工事目的の内訳は、学校施設1件、住宅33件、個人住宅96件（うち1件は宅地造成も含む）、個人住宅兼店舗2件、その他建物2件、宅地造成12件、水道・ガス・電気45件、農業基盤整備3件、その他開発7件である。

表10 埋蔵文化財発掘届・通知一覧

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
1	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北三丁目46番	個人	工事立会		加教文第3号
2	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野526番6	個人	慎重工事		加教文第6号
3	加古川城跡 城館跡 中世	ガス	加古川町本町108番地先	事業者	慎重工事		加教文第59号
4	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福338番10	個人	慎重工事		加教文第136号
5	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅兼店舗	加古川町溝之口332番5・6・9、333番12～14の各一部	個人	慎重工事		加教文第137号
6	平野遺跡 集落跡 弥生	ガス	加古川町平野440番地先	事業者	慎重工事		加教文第138号
7	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口69番1、70番4の各一部	個人	工事立会		加教文第139号
8	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	加古川町美乃利455番3の一部	個人	工事立会		加教文第141号
9	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口69番1の一部	個人	確認調査 慎重工事	5月9日	加教文第155号
10	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	その他開発 屋外看板設置	野口町坂元北一丁目24番	事業者	工事立会		加教文第181号
11	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利498番18・22、512番5	個人	工事立会		加教文第182号
12	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津551番14、515番24・30	事業者	慎重工事		加教文第194号
13	粟津大年遺跡 集落跡 中世	住宅	加古川町木村21番16	事業者	確認調査 慎重工事	5月13日	加教文第229号
14	具平塚遺跡 散布地 弥生	個人住宅	野口町良野522番27	個人	確認調査 慎重工事	4月6日	加教文第257号
15	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目19番2	個人	慎重工事		加教文第269号
16	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目15番1	個人	慎重工事		加教文第288号
17	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	下水道	東神吉町神吉1123番5地先	加古川市 上下水道局	工事立会		加教文第290号
18	横山遺跡 集落跡 縄文	下水道	志方町上富木80番地先	加古川市 上下水道局	工事立会		加教文第291号
19	中西低地遺跡 集落跡 弥生～古墳	下水道	西神吉町中西15番2地先	加古川市 上下水道局	工事立会		加教文第293号
20	横大路遺跡 散布地 縄文	下水道	志方町横大路266番1地先	加古川市 上下水道局	工事立会		加教文第294号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
21	神木遺跡 集落跡 奈良	下水道	平荘町山角167番2地先	加古川市 上下水道局	工事立会		加教文第295号
22	北谷遺跡 集落跡 奈良～平安	下水道	西神吉町宮前156番1地先	加古川市 上下水道局	工事立会		加教文第296号
23	砂部構居跡 城館跡 中世	下水道	東神吉町砂部455番1地先	加古川市 上下水道局	工事立会		加教文第297号
24	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	下水道	加古川町美乃利464番1地先	加古川市 上下水道局	慎重工事		加教文第298号
25	西条4号墳 古墳 古墳	個人住宅	西条山手二丁目3番29	個人	確認調査 慎重工事	4月19日	加教文第301号
26	長砂遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	野口町長砂1053番13・16	個人	確認調査 慎重工事	4月20日	加教文第304号
27	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	宅地造成	加古川町美乃利381番1、 381番2の一部、水路、市道	事業者	確認調査 慎重工事	6月30日	加教文第325号
28	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口116番地先	事業者	慎重工事		加教文第326号
29	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町砂部354番21地先	事業者	工事立会		加教文第327号
30	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	尾上町口里517番地先	事業者	慎重工事		加教文第328号
31	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口400番地先	事業者	工事立会		加教文第329号
32	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北五丁目1-3-1 番地先	事業者	工事立会		加教文第330号
33	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津551番9	事業者	慎重工事		加教文第335号
34	加古川城跡 城館跡 中世	宅地造成	加古川町本町108番1・4	事業者	確認調査 慎重工事	4月14日	加教文第338号
35	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福338番12	個人	慎重工事		加教文第343号
36	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口332番5地先	事業者	慎重工事		加教文第391号
37	尾上構居跡 城館跡 中世	ガス	尾上町長田493番地先	事業者	慎重工事		加教文第396号
38	岸城跡 城館跡 中世	ガス	西神吉町岸344番5地先	事業者	慎重工事		加教文第416号
39	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口140番1～ 5・8	事業者	確認調査 慎重工事	6月1・2日	加教文第439号
40	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	個人住宅	平岡町新在家57番1	個人	確認調査 慎重工事	5月20日	加教文第453号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
41	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口52番5、55番1の各一部	個人	確認調査 慎重工事	6月20日	加教文第456号
42	神吉城跡 城館跡 中世	宅地造成	東神吉町神吉1337番	個人	確認調査 慎重工事	6月8・10日	加教文第457号
43	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北三丁目1番	事業者	慎重工事		加教文第464号
44	神吉南遺跡 集落跡 弥生～奈良	個人住宅	東神吉町神吉169番3、169番10の一部	個人	確認調査 慎重工事	8月1日	加教文第502号
45	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北四丁目28番地先	事業者	工事立会		加教文第506号
46	一色構居跡 城館跡 中世	その他開発 浄化槽解体	平岡町一色530番2	個人	確認調査 慎重工事	7月14日	加教文第533号
47	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利310番7	個人	慎重工事		加教文第580号
48	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目19番1	個人	慎重工事		加教文第592号
49	平山遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	平荘町池尻616番1	個人	確認調査 慎重工事	7月1日	加教文第601号
50	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福355番14、358番16	個人	慎重工事		加教文第612号
51	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口69番8・10	個人	慎重工事		加教文第614号
52	具平塚遺跡 散布地 弥生	個人住宅	野口町良野522番4	個人	慎重工事		加教文第627号
53	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福338番8	個人	慎重工事		加教文第636号
54	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	宅地造成	野口町良野990番1・2	事業者	確認調査 慎重工事	7月6・7日	加教文第652号
55	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成及び 個人住宅	野口町坂元北二丁目32番1	個人	慎重工事		加教文第657号
56	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口334番3・4・6～8・10	事業者	慎重工事		加教文第658号
57	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	尾上町口里520番10～524番1地先	事業者	慎重工事		加教文第659号
58	具平塚遺跡 散布地 弥生	ガス	野口町坂元84番1～良野522番7地先	事業者	慎重工事		加教文第660号
59	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 弥生・奈良～平安	農業基盤整備	八幡町中西条・上西条地内	兵庫県 北播磨県民局	確認調査等 発掘調査	平成27(2015)年度に確認調査等を実施	加教文第707号
60	古堂廃寺 社寺跡 奈良	農業基盤整備	八幡町中西条・上西条地内	兵庫県 北播磨県民局	確認調査等 発掘調査	平成27(2015)年度に確認調査等を実施	加教文第708号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
61	猫池遺跡 散布地 弥生	農業基盤整備	八幡町中西条・上西条地内	兵庫県 北播磨県民局	確認調査等 発掘調査	平成27・28(2015・ 2016)年度に確認 調査等を実施	加教文第709号 ^{註2}
62	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口130番12、 144番12・18	個人	慎重工事		加教文第732号
63	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福355番8	個人	慎重工事		加教文第739号
64	粟津大年遺跡 集落跡 中世	ガス	加古川町粟津327番4地先	事業者	工事立会		加教文第740号
65	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口字中船頭	個人	慎重工事		加教文第751号
66	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町神吉608番175	個人	慎重工事		加教文第769号
67	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目15番2	個人	慎重工事		加教文第773号
68	上富木遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	志方町上富木392番	個人	確認調査 慎重工事	8月2日	加教文第804号
69	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	宅地造成	東神吉町西井ノ口10番の一 部、14番1・2、水路	個人	慎重工事		加教文第839号
70	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目26番5	個人	慎重工事		加教文第856号
71	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利112番10	事業者	工事立会		加教文第872号
72	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野526番13・18・ 14の一部、533番6	個人	慎重工事		加教文第874号
73	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口129番1、 130番7	個人	慎重工事		加教文第940号
74	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津551番11	事業者	慎重工事		加教文第941号
75	今福遺跡 集落跡 弥生	住宅	尾上町今福341番19、342番 9	事業者	慎重工事		加教文第968号
76	加古川城跡 城館跡 中世	個人住宅	加古川町本町108番10	個人	慎重工事		加教文第969号
77	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町安田576番4・6	個人	慎重工事		加教文第970号
78	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	宅地造成	尾上町口里473番14、474番 の各一部	事業者	確認調査 慎重工事	9月9日	加教文第977号
79	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条1059番17	個人	慎重工事		加教文第1019号
80	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番20(分 筆予定その1)	個人	慎重工事		加教文第1025号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
81	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番20（分筆予定その2）	個人	慎重工事		加教文第1026号
82	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番14	個人	慎重工事		加教文第1034号
83	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番24	個人	慎重工事		加教文第1035号
84	今福遺跡 集落跡 弥生	住宅	尾上町今福338番11	事業者	慎重工事		加教文第1036号
85	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口387番5地先	事業者	慎重工事		加教文第1037号
86	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口37番3～36番1地先	事業者	慎重工事		加教文第1062号
87	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	住宅	神野町西条1069番8	事業者	確認調査 慎重工事	8月25日	加教文第1093号
88	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	学校施設	東神吉町砂部393番	加古川市	確認調査 慎重工事	9月15日	加教文第1102号
89	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福355番10	個人	慎重工事		加教文第1103号
90	中道子山城跡 城館跡 中世	その他開発 放送設備設置	志方町広尾1939番62の一部	事業者	確認調査 発掘調査	10月31日 ～11月24日	加教文第1106号
91	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里554番2	個人	確認調査 慎重工事	9月1日	加教文第1107号
92	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目15番4	個人	慎重工事		加教文第1108号
93	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里524番1・2	個人	慎重工事		加教文第1111号
94	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津551番6	事業者	慎重工事		加教文第1115号
95	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条1059番8	個人	慎重工事		加教文第1118号
96	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元1103番2	個人	慎重工事		加教文第1127号
97	加古川城跡 城館跡 中世	住宅	加古川町本町108番15	事業者	慎重工事		加教文第1154号
98	尾上構居跡 城館跡 中世	住宅	尾上町長田485番21	事業者	慎重工事		加教文第1156号
99	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北五丁目16番地先	事業者	慎重工事		加教文第1159号
100	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町美乃利381番1地先	事業者	工事立会		加教文第1170号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
101	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北三丁目4番地 先	事業者	工事立会		加教文第1172号
102	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口400番地先	事業者	慎重工事		加教文第1173号
103	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目26番1	個人	慎重工事		加教文第1174号
104	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口130番8	個人	慎重工事		加教文第1175号
105	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条1059番5	個人	慎重工事		加教文第1191号
106	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野526番20	個人	慎重工事		加教文第1192号
107	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元1103番1	個人	慎重工事		加教文第1201号
108	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利512番	個人	慎重工事		加教文第1227号
109	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目51番1	個人	慎重工事		加教文第1230号
110	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利471番3	個人	慎重工事		加教文第1240号
111	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	ガス	神野町神野250～241番地先	事業者	慎重工事		加教文第1247号
112	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北三丁目22番4	個人	慎重工事		加教文第1262号
113	尾上構居跡 城館跡 中世	住宅	尾上町長田485番10・12	事業者	慎重工事		加教文第1263号
114	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口130番11	個人	慎重工事		加教文第1272号
115	稲屋構居跡 城館跡 中世	住宅	加古川町稲屋779番9	事業者	慎重工事		加教文第1279号
116	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目26番6	事業者	慎重工事		加教文第1299号
117	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目26番3	事業者	慎重工事		加教文第1300号
118	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条1059番13	個人	慎重工事		加教文第1301号
119	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町神吉608番175地先	事業者	慎重工事		加教文第1334号
120	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津515番25・26・ 31、551番13	事業者	慎重工事		加教文第1335号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
121	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口129番5、 130番6	個人	慎重工事		加教文第1368号
122	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野526番21	個人	慎重工事		加教文第1376号
123	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里511番6・9	個人	慎重工事		加教文第1397号
124	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	宅地造成	尾上町口里560番	個人	確認調査 慎重工事	10月17日	加教文第1416号
125	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	宅地造成	加古川町美乃利493番2・3 の一部、465番2	事業者	慎重工事		加教文第1445号
126	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	住宅	東神吉町神吉608番201	事業者	確認調査 慎重工事	10月8日	加教文第1446号
127	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町長田251番4	個人	慎重工事		加教文第1447号
128	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里524番21・23	個人	慎重工事		加教文第1478号
129	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里524番12	個人	慎重工事		加教文第1482号
130	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里524番22	個人	慎重工事		加教文第1483号
131	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口129番6、 130番5	個人	慎重工事		加教文第1484号
132	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福345番4	個人	慎重工事		加教文第1488号
133	長砂遺跡 集落跡 弥生	その他建物	野口町長砂756番5、762番 1、763番1・2	個人	慎重工事		加教文第1503号
134	砂部構居跡 城館跡 中世	個人住宅	東神吉町砂部186番1	個人	慎重工事		加教文第1513号
135	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	宅地造成	加古川町美乃利104番、113 番7の一部	事業者	慎重工事		加教文第1518号
136	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条1059番12	個人	慎重工事		加教文第1519号
137	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番10	個人	慎重工事		加教文第1531号
138	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番15	個人	慎重工事		加教文第1532号
139	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番16	個人	慎重工事		加教文第1534号
140	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番23	個人	慎重工事		加教文第1535号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
141	一色構居跡 城館跡 中世	ガス	平岡町一色530番2地先	事業者	慎重工事		加教文第1536号
142	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町砂部374番37地先	事業者	工事立会		加教文第1537号
143	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町長田249番20	個人	確認調査 慎重工事	11月8日	加教文第1573号
144	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口36番8	事業者	工事立会		加教文第1632号
145	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口37番1	事業者	工事立会		加教文第1633号
146	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口37番19	事業者	工事立会		加教文第1635号
147	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口37番25	事業者	慎重工事		加教文第1636号
148	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口37番32	事業者	慎重工事		加教文第1637号
149	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口37番33	事業者	工事立会		加教文第1638号
150	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番17	個人	慎重工事		加教文第1639号
151	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番22	個人	慎重工事		加教文第1640号
152	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町神吉608番201地先	事業者	慎重工事		加教文第1641号
153	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	尾上町口里543番18～554番 地先	事業者	慎重工事		加教文第1642号
154	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野526番10	個人	慎重工事		加教文第1647号
155	一色構居跡 城館跡 中世	宅地造成	平岡町一色530番2	事業者	慎重工事		加教文第1705号
156	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	ガス	野口町良野2番2～990番地 先	事業者	慎重工事		加教文第1750号
157	岸遺跡 集落跡 縄文～弥生	ガス	西神吉町岸371番9～350番 8地先	事業者	工事立会		加教文第1751号
158	尾上構居跡 城館跡 中世	個人住宅	尾上町長田331番3	個人	慎重工事		加教文第1768号
159	観音寺城跡 城館跡 中世	その他建物	志方町志方町1061番1・5、 1067番3	事業者	確認調査 慎重工事	1月27日	加教文第1769号
160	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利113番9	個人	慎重工事		加教文第1770号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
161	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	個人住宅	東神吉町砂部440番1	個人	確認調査 工事立会	12月7日	加教文第1814号
162	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町西井ノ口202番5～ 14番1地先	事業者	慎重工事		加教文第1817号
163	一色構居跡 城館跡 中世	個人住宅	平岡町一色61番7	個人	確認調査 慎重工事	12月1日	加教文第1821号
164	山之上遺跡 散布地 旧石器	水道	平岡町山之上684番6地先	播磨町	慎重工事		加教文第1869号
165	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口40番1	事業者	工事立会		加教文第1872号
166	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	尾上町長田251番4地先	事業者	慎重工事		加教文第1873号
167	長砂遺跡 集落跡 弥生	その他開発 携帯電話基地 局設置	野口町長砂1071番1	事業者	慎重工事		加教文第1895号
168	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	宅地造成	神野町西条1056番4、1059 番1、1062番、1063番の一 部	事業者	確認調査 工事立会	12月21日	加教文第1928号
169	池尻6号墳 古墳 古墳	その他開発 解体工事	平荘町里	兵庫県企業庁東 播磨利水事務所	工事立会		加教文第1929号
170	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	その他開発 管理用通路設 置	神野町神野348番2、1819番 2	兵庫県 住宅供給公社	慎重工事		加教文第1947号
171	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口76番1地先	事業者	慎重工事		加教文第1948号
172	長畑遺跡 集落跡 弥生	住宅	平岡町高畑137番3・6	事業者	慎重工事		加教文第1961号
173	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条1059番14	個人	慎重工事		加教文第1974号
174	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口76番1の一 部	個人	確認調査 慎重工事	1月19日	加教文第2029号
175	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目26番4	事業者	慎重工事		加教文第2041号
176	一色構居跡 城館跡 中世	住宅	平岡町一色58番7	事業者	慎重工事		加教文第2043号
177	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅兼店 舗	加古川町溝之口93番7	事業者	慎重工事		加教文第2083号
178	山角廃寺 社寺跡 奈良	個人住宅	平荘町山角410番	個人	確認調査 慎重工事	2月7日	加教文第2084号
179	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条1059番9	個人	慎重工事		加教文第2085号
180	聖陵山古墳 古墳 古墳	ガス	野口町長砂756番5地先	事業者	慎重工事		加教文第2086号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
181	長畑遺跡 集落跡 弥生	ガス	平岡町高畑137番地先	事業者	慎重工事		加教文第2088号
182	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	個人住宅	野口町古大内349番23	個人	確認調査 慎重工事	1月30日	加教文第2107号
183	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北四丁目29番4	個人	慎重工事		加教文第2108号
184	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福230番3	個人	工事立会		加教文第2130号
185	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町神吉651番55	個人	工事立会		加教文第2131号
186	神吉城跡 城館跡 中世	個人住宅	東神吉町神吉1337番13・17 の一部	個人	慎重工事		加教文第2157号
187	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福345番6～8	個人	慎重工事		加教文第2158号
188	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北三丁目1番8	事業者	慎重工事		加教文第2160号
189	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北三丁目1番3	事業者	慎重工事		加教文第2161号
190	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町美乃利113番15～ 104番地先	事業者	慎重工事		加教文第2218号
191	一色構居跡 城館跡 中世	個人住宅	平岡町一色61番6	個人	慎重工事		加教文第2246号
192	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	その他開発 地盤調査	加古川町美乃利337番1・4	事業者	工事立会		加教文第2247号
193	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	八幡町上西条12番2の一部	個人	工事立会		加教文第2276号
194	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北五丁目15番4 地先	事業者	工事立会		加教文第2341号
195	今福遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	尾上町今福345番5	個人	慎重工事		加教文第2343号
196	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目51番2・ 4	個人	慎重工事		加教文第2358号
197	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目93番の 一部	個人	慎重工事		加教文第2587号
198	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町美乃利478番1地先	事業者	工事立会		加教文第2616号
199	加古川城跡 城館跡 中世	住宅	加古川町本町108番11	事業者	慎重工事		加教文第2653号
200	加古川城跡 城館跡 中世	住宅	加古川町本町108番12	事業者	慎重工事		加教文第2654号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
201	神吉城跡 城館跡 中世	個人住宅	東神吉町神吉1337番15・19 の一部	個人	慎重工事		加教文第2664号

註1：調査期間は確認調査の期間であり、発掘調査及び工事立会の期間は記載していない。

註2：猫池遺跡における発掘調査は、その後の工事計画の変更によって実施していない。

(3) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘調査通知

平成28年度は、表11のとおり文化財保護法第99条に基づく埋蔵文化財発掘調査通知を報告した。

表11 埋蔵文化財発掘調査通知一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査の契機	調査期間	調査担当者	文書番号	備考
1	中道子山城跡 城館跡 中世	志方町広尾1939番 62の一部	87.85㎡	その他開発 放送設備設置	11月25日 ～12月9日	李 聖子	加教文 第1106号	
2	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 弥生・奈良～平安	八幡町中西条・上 西条地内	1161㎡	農業基盤整備	11月17日 ～3月15日	山中リュウ	加教文 第1926号	雁戸井土地改良区 ほ場整備事業
3	古堂院寺 社寺跡 奈良	八幡町中西条・上 西条地内	588㎡	農業基盤整備	11月17日 ～3月15日	山中リュウ	加教文 第1927号	雁戸井土地改良区 ほ場整備事業

(4) 周知の埋蔵文化財包蔵地の変更

平成28年度は、表12のとおり周知の埋蔵文化財包蔵地の変更を報告した。

表12 周知の埋蔵文化財包蔵地の変更一覧

番号	遺跡名	所在地	変更理由	発見年月日	発見の事情	文書番号など	備考
1	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 弥生・奈良～平安	八幡町中西条・上 西条地内	一部範囲発見	平成28年2月19日	試掘調査 確認調査	平成28年4月12日付 加教文第707号	平成28年4月12日付 教文第1808号にて通 知
2	神野遺跡 集落跡 縄文～平安	神野町西条	一部範囲発見 一部範囲消滅	平成28年2月8日	試掘調査	平成28年5月13日付 加教文第380号	平成28年5月18日付 教文第1244号にて通 知
3	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町美乃利381 番1、381番2の一 部、水路、市道	一部範囲発見	平成28年6月30日	確認調査	平成28年7月7日付 加教文第325号	平成28年7月8日付 教文第1763号にて通 知

(5) 埋蔵物発見届

平成28年度は、表13のとおり埋蔵物発見届を提出した。

表13 埋蔵物発見届一覧

番号	遺跡名	所在地	埋蔵物の名称及び数量	発見年月日	発見者	土地所有者	文書番号
1	中道子山城跡 城館跡 中世	志方町広尾1939番 62の一部	土師質土器・陶器・磁器等 収納コンテナ1箱	平成29年 1月13日	加古川市教育 委員会	加古川市長	加教文第1106号
2	上村池遺跡 集落跡・生産遺跡 弥生・奈良～平安	八幡町中西条・上 西条地内	土師器・須恵器等 収納コンテナ15箱	平成29年 3月29日	加古川市教育 委員会	個人(14名)	加教文第1926号

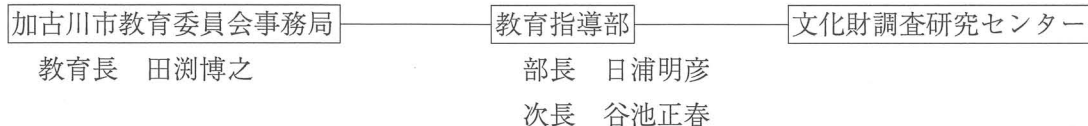
(平尾)

第6章 組織、予算・決算、管理

1 文化財保護事務の体制

(1) 事務局

平成28(2016)年度の加古川市教育委員会の文化財保護事務の体制は以下のとおりである。



(2) 職員

平成28年度の文化財調査研究センターの職員は以下のとおりである。

所長	梶浦 匠 (再任用職員)
副所長	宮本佳典 (学芸員)
庶務担当係長	由井 章 (教育研究所事務担当係長兼務)
学芸員	山中リュウ
学芸員	李 聖子
学芸員	平尾英希
臨時職員	藤原典子

2 予算・決算

(1) 歳入決算額 () 内は当初予算額

(款) 国庫支出金	(項) 国庫補助金	(目) 教育費国庫補助金	8,250千円 (8,750千円)
(款) 県支出金	(項) 県庫補助金	(目) 教育費県庫補助金	6,031千円 (6,281千円)
(款) 諸収入	(項) 受託事業収入	(目) 教育費受託収入	12,063千円 (23,075千円)
(款) 諸収入	(項) 雑入	(目) 雑入	11千円 (30千円)
計			26,355千円 (38,136千円)

(2) 歳出決算額 () 内は当初予算額、事業名の下に主な事業内容を記入

(款) 教育費	(項) 社会教育費	(目) 文化財保護費	以上共通
(事業) 文化財調査事業			25,632千円 (44,382千円)
	市内遺跡発掘調査 (国庫補助事業)、雁戸井地区ほ場整備事業に伴う発掘調査 公共事業に伴う試掘調査		
(事業) 文化財保護活動事業			9,983千円 (10,482千円)
	文化財審議委員会など開催、文化財ニュース発行、文化財講座開催、文化財説明板設置 本岡家住宅屋根小修理 (県費補助事業)、文化財保存管理補助 史跡及び建造物など草刈等管理、その他の文化財関係事務		
(事業) 西条古墳群史跡整備事業 (国庫補助事業)			7,261千円 (8,848千円)
	人塚古墳史跡整備工事、人塚古墳発掘調査報告書作成 西条古墳群史跡整備事業報告書作成		
計			42,875千円 (63,712千円)

3 施設管理など

環境整備として、加古川市が管理する行者塚古墳、尼塚古墳、人塚古墳（以上、国史跡）、西条廃寺（県史跡）、平木橋（市指定文化財）、里古墳、西山大塚古墳、南大塚古墳、西大塚古墳、西車塚古墳の草刈などの環境整備を加古川市シルバー人材センターに業務を委託して行った。

加古川市が管理する県指定文化財本岡家住宅について、清掃及び案内などの施設管理を加古川市シルバー人材センターに、また消防設備点検を専門業者に業務を委託して行った。

文化財説明板などの設置及び環境整備として、加古川市が提供する文化財説明板などの設置及び周辺の清掃などの環境整備を加古川市シルバー人材センターに業務を委託して行った。

4 平成28年度業務日誌抄

- 4月5日 加古川文化財ガイドボランティア代表数岡氏来所
- 4月22日 西条古墳群史跡整備委員会開催
- 4月26日 神野小学校6年生歴史学習に係る講師派遣（山中）
- 5月5日 本岡家住宅こどもの日特別公開、「箏曲柳の会」及び「すみれキンダーガーデン」合同コンサート及び体験教室に係る使用受入れ
- 5月19日 学術研究に係る資料調査（池尻2号墳、カンス塚古墳出土資料）受入れ
- 5月24日 加古川総合文化センターアドバイザーボード委員第1回会議出席（宮本）
- 5月26日 兵庫県文化財主管課連絡会議のため兵庫県職員会館へ出張（梶浦、李）
- 5月30日 石守廃寺及び野口廃寺出土瓦を別保管施設（大野水源地第4倉庫）へ移動
- 5月31日 加古川市文化財保護協会理事会出席（梶浦）
- 6月6日～6月10日 トライやる・ウィーク平岡中学校2年生3名受入れ
- 6月24日 第1回文化財審議委員会開催
- 7月1日～7月22日 中学校給食センター建設に伴う試掘調査
- 7月4日～7月12日 西市民病院跡地活用事業に伴う試掘調査
- 7月5日 正興寺所蔵釈迦涅槃図の資料調査（宮本）
- 7月14日 全史協近畿地区協議会総会ほか「姫路大会」のためホテル日航姫路へ出張（平尾）
- 8月9日 学術研究及び特別展準備に係る資料調査（行者塚古墳、カンス塚古墳、池尻2号墳、砂部遺跡出土資料）受入れ
- 8月17日～8月24日 中津水足線外1線道路改良事業に伴う試掘調査
- 8月25日 平成29年度文化財関係補助事業計画ヒアリングのため兵庫県庁へ出張（宮本、山中、李）
- 9月2日 兵庫県文化財関係事務研修のため兵庫県民会館へ出張（李、平尾）
- 9月30日 雁戸井土地改良区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査住民説明会
- 10月4日 論文執筆に係る資料調査（白沢2号窯出土資料）受入れ
- 10月8日～11月6日 加古川総合文化センター博物館企画展「初公開の土器－溝之口遺跡と美乃利遺跡－」共催
- 10月13日 兵庫県都市文化財保護行政連絡協議会総会のため播磨内陸生活文化総合センターへ出張（平尾）
- 10月25日 鶴林寺文化財保存会総会のため鶴林寺へ出張（宮本）
- 11月5日 第1回文化財講座開催
- 11月16日 野口・坂元・良野の歴史と文化財についての学習会に係る講師派遣（宮本）

- 11月17日～3月10日 雁戸井ほ場整備事業に伴う上村池遺跡、古堂廃寺発掘調査
- 11月19日 第2回文化財講座開催
- 11月22日 加古川総合文化センターアドバイザーボード委員第2回会議出席（宮本）
- 11月24日 第2回文化財審議委員会開催
- 11月24日～11月30日 本岡家住宅秋の特別公開
- 11月25日～12月9日 民間開発に伴う中道子山城跡発掘調査
- 12月1日～12月28日 本岡家住宅茅葺屋根修理
- 12月2日 兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会に係る報告者派遣（山中）
- 12月3日 第3回文化財講座開催
- 1月6日～2月28日 雁戸井ほ場整備事業に伴う八幡町上西条・下村地区の試掘及び確認調査
- 1月10日 いなみ野学園大学院講座に係る講師派遣（宮本）
- 1月20日 第3回文化財審議委員会開催
- 1月22日 「文化財防火デー」鶴林寺消防訓練
- 2月25日 ふるさと発掘展「大中遺跡「再」発見」に係る講師派遣（山中）
- 3月2日 定例教育委員会にて「石造十三重塔（常楽寺）」市指定文化財指定
- 3月4日 上村池遺跡、古堂廃寺発掘調査現地説明会開催
- 3月15日 東播磨・北播磨地区文化財担当者会のため播磨内陸生活文化総合センターへ出張（宮本、平尾）
- 3月15日 『加古川市西条古墳群人塚古墳』加古川市文化財調査報告25、『史跡西条古墳群保存整備事業報告書』加古川市文化財調査報告26、『史跡西条古墳群～保存整備事業の概要～』発行
- 3月27日 第4回文化財審議委員会開催
- 3月28日～3月29日 文化財説明板・標柱立替え作業
- 3月31日 『文化財ニュース』59号発行

(平尾)

報告書抄録

ふりがな	かこがわしぶんかざいねんぼう だいにごう
書名	加古川市文化財年報 第2号
副書名	平成28(2016)年度
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	宮本佳典、山中リュウ、平尾英希(編)
編集機関	加古川市教育委員会
所在地	〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224-7
発行年月日	平成31(2019)年3月22日

所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
美乃利遺跡 みのりいせき	かこがわし 加古川市 かこがわちやう 加古川町 みのりちない 美乃利地内	28210	110218	34° 46' 12"	134° 51' 12"	2016年4月19日 ～2016年5月31日	約26㎡	下水道
溝之口遺跡 みぞのくちいせき	かこがわし 加古川市 かこがわちやう 加古川町 みぞのくち 溝之口 140番1ほか	28210	110010	34° 45' 56"	134° 50' 52"	2016年6月1日 ～2016年6月2日	8.7㎡	住宅
溝之口遺跡 みぞのくちいせき	かこがわし 加古川市 かこがわちやう 加古川町 みのり 美乃利 381番1ほか	28210	110010	34° 46' 7"	134° 51' 1"	2016年6月30日	8㎡	宅地造成
米田町 よねだちやう 米田町 ひらつちく 平津地区	かこがわし 加古川市 よねだちやうひらつ 米田町平津 384番ほか	28210	-	34° 47' 13"	134° 49' 0"	2016年7月4日 ～2016年7月12日	約48㎡	西市民病院 跡地活用事業
溝之口遺跡 みぞのくちいせき	かこがわし 加古川市 かこがわちやう 加古川町 みぞのくち 溝之口 うえよこたちない 上横田地内	28210	110010	34° 45' 56"	134° 50' 58"	2016年8月22日 ～2016年8月24日	約77㎡	防火水槽設置

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
美乃利遺跡	集落	弥生時代 ～平安時代	竪穴建物・溝など	弥生土器・土師器・須恵器	
溝之口遺跡	集落	弥生時代 ～平安時代	溝・土坑・ピット	弥生土器・土師器・須恵器・ 石器剥片	
溝之口遺跡	集落	弥生時代 ～平安時代	溝・性格不明遺構	弥生土器・土師器・須恵器	
米田町 平津地区	-	弥生時代	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器	
溝之口遺跡	集落	奈良時代	溝・土坑・ピット	土師器・須恵器・製塩土器・ イイダコ壺	

加古川市文化財年報

第2号

平成28（2016）年度

平成31（2019）年3月22日発行

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224-7
Tel 079-423-4088 Fax 079-423-8975

印刷 小野高速印刷株式会社
〒670-0933 兵庫県姫路市平野町62
